

世界に誇れる、ものづくり

# 2024年12月期 決算説明資料

湖北工業株式会社  
2025年2月12日

湖北工業はアルミ電解コンデンサ用リード端子と  
海底光通信用部品のリーディングカンパニーです。

# 目次

I.	2024年12月期 決算概況 2025年12月期 業績見通し	P. 2
II.	中期経営計画 成長戦略	P.11
III.	セグメント別の状況	P.27
IV.	参考資料	P.45

**I. 2024年12月期 決算概況  
2025年12月期 業績見通し**

# 2024年12月期のハイライト

- 業績は2023年12月の4Qに底打ちした後、回復基調を辿った
- 営業利益については、前年比40.1%の増益
- 売上・経常利益・当期純利益は2022年のピークを上回り過去最高を達成

## ● 事業環境

- 海底ケーブル向け市場は、一時的な在庫調整はあったが、新規プロジェクトへの投資再開により拡大基調
- 自動車用エレクトロニクス市場では、在庫調整が一段落したことに加えて環境対応車の普及やADASに代表される高機能化が進展、回復が見られたが、秋以降は欧州EV市場の停滞や、中国における需要の鈍化などの影響を受けた
- 情報通信機器市場などは、企業におけるAIサーバーを中心とするIT需要の拡大により好調に推移

## ● 業績（4Q累計）

- 売上は前年比18.2%（2,451百万円）の増収。4Qは一時的な調整が入ったものの、通期ベースでは順調に売上が回復
- 営業利益は前年比40.1%（1,126百万円）の増益。主力2事業での売上回復に加えてリード端子事業の収益改善策が奏功し大幅増益

# 損益計算書(4Q累計)の概要

主力2事業ともに大きく回復し、前年比18.2%の増収、同40.1%の営業増益

(単位：百万円)

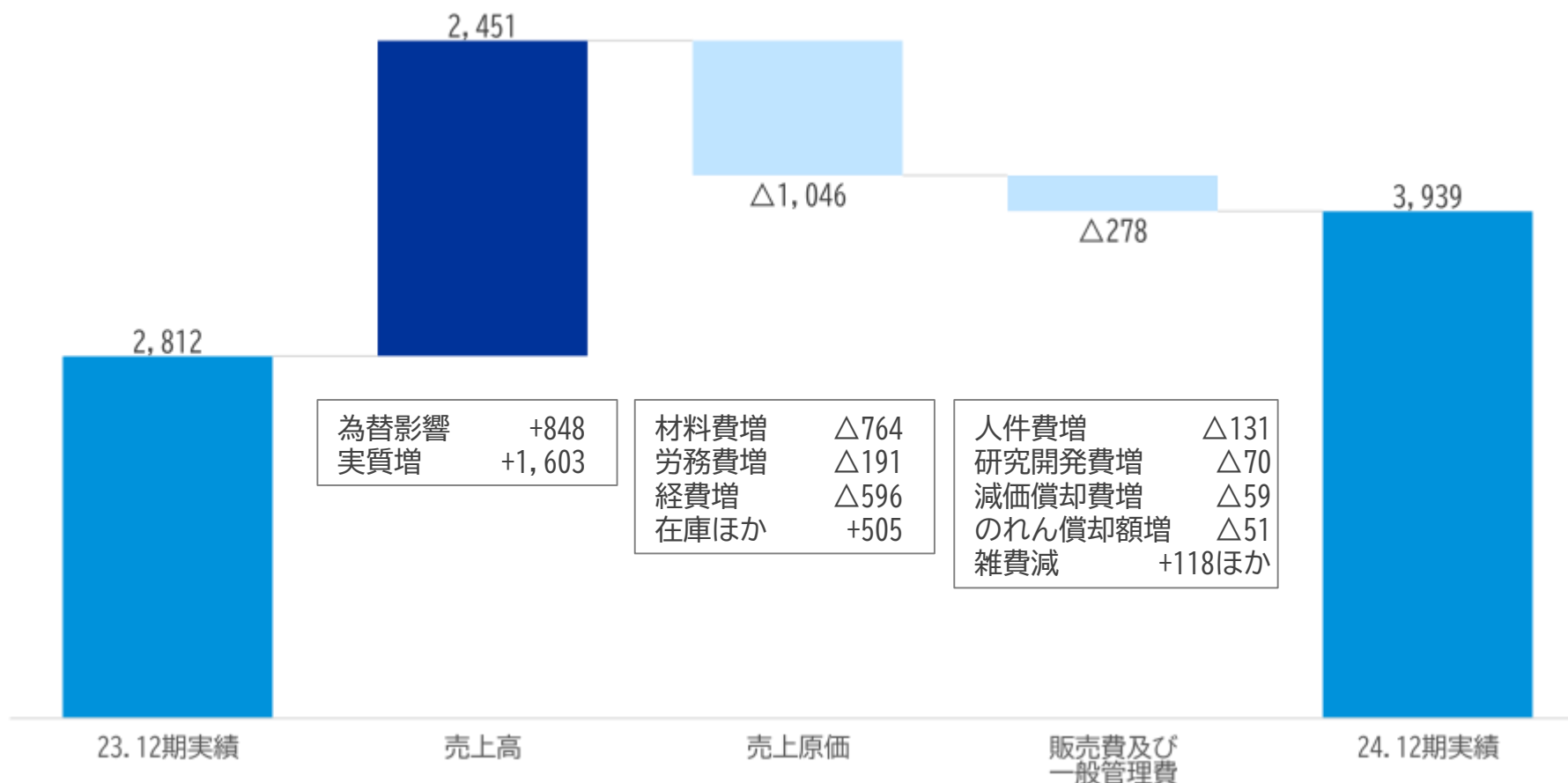
	2023. 12期	2024. 12期		2024. 12期						
	4Q累計 (1月-12月)	4Q累計 (1月-12月)	前年比	1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	3Q (7月-9月)	4Q (9月-12月)	直前四半期比		
売上高	13,472	15,924	+2,451	+18.2%	3,413	4,294	4,430	3,786	△643	△14.5%
リード端子事業	7,400	8,403	+1,002	+13.6%	1,929	2,157	2,198	2,118	△80	△3.7%
光部品・デバイス事業	6,071	7,520	+1,448	+23.9%	1,484	2,136	2,231	1,668	△563	△25.3%
営業利益	2,812	3,939	+1,126	+40.1%	635	1,152	1,385	765	△620	△44.8%
営業利益率	20.9%	24.7%	+3.8pt	—	18.6%	26.8%	31.3%	20.2%	△11.1pt	—
リード端子事業	44	403	+358	+799.3%	△13	132	177	107	△70	△39.6%
光部品・デバイス事業	2,767	3,536	+768	+27.8%	649	1,020	1,208	658	△550	△45.5%
経常利益	3,152	4,856	+1,703	+54.0%	1,130	1,622	572	1,530	+957	+167.2%
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益	1,904	3,252	+1,348	+70.8%	724	1,066	433	1,027	+594	+137.2%
為替レート(期中平均)	140.66円/\$	151.69円/\$			148.62円/\$	155.86円/\$	149.69円/\$	152.37円/\$		

- ・4Qの売上、営業利益は光部品・デバイス部門での顧客の一時的な在庫調整により修正計画を下回った
- ・経常利益、当期純利益は、為替差益の発生により計画を上回った

# 営業利益(4Q累計)の増減要因 (前年比)

売上の大幅増と生産効率改善等により材料費などのコスト増を吸収、前年比40.1%増と大幅増益

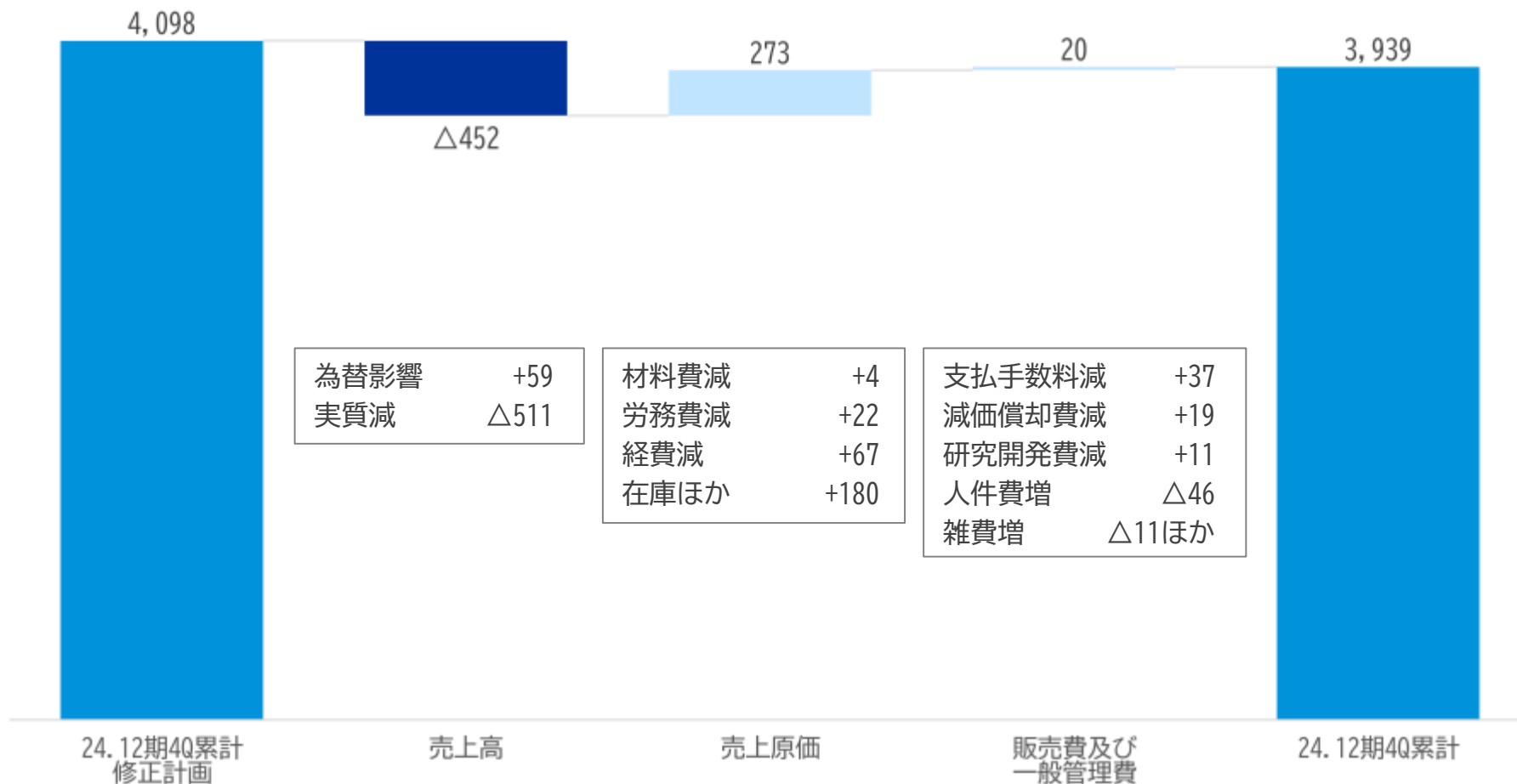
(単位：百万円)



# 営業利益(4Q累計)の増減要因 (修正計画比)

4Qの一時的な売上減の影響を受け、営業利益は若干の未達

(単位：百万円)



# 貸借対照表 / キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位：百万円)

貸借対照表	23.12期末	24.12期末	増減額	主な増減内容
流動資産	16,735	18,331	+1,596	受取手形、売掛金及び契約資産 +562、原材料及び貯蔵品 +322、有価証券 +1,801、現金及び預金 △1,537ほか
固定資産	8,237	10,353	+2,116	米原駅前土地取得 +612、機械装置及び運搬具（純額） +281、のれん +291、投資有価証券 +471ほか
資産合計	24,973	28,684	+3,711	
流動負債	2,522	2,945	+422	買掛金 +224、未払法人税等 +665、一年内返済予定の長期借入金 △309、短期借入金 △196ほか
固定負債	2,391	2,309	△81	長期借入金 △208、リース債務 +58、繰延税金負債 +47ほか
負債合計	4,913	5,254	+340	
純資産合計	20,059	23,430	+3,371	利益剰余金 +2,712、為替換算調整勘定 +671ほか
負債・純資産合計	24,973	28,684	+3,711	

キャッシュ・フロー計算書	23.12期	24.12期	24.12期の主な内訳
営業キャッシュ・フロー	3,577	3,836	税金等調整前当期純利益 +4,856、売上債権の増加額 △640 棚卸資産の増加額 △306、法人税等の支払額 △888
投資キャッシュ・フロー	△1,033	△3,115	定期預金の預入による支出 △956、投資有価証券の取得による支出 △806、有形固定資産の取得による支出 △1,433
フリーキャッシュ・フロー	2,544	721	
財務キャッシュ・フロー	△1,577	△1,636	配当金の支払額 △539 長期借入金の返済による支出 △626
現金及び現金同等物の増減額	1,076	△639	
現金及び現金同等物の期末残高	10,439	9,799	



# 2025年12月期業績の見通し

堅調な光部品・デバイス事業に加え、リード端子事業は大幅な収益性の回復を見込む

(単位：百万円)

<為替感応度>(※) 売上高80百万円/円 営業利益30百万円/円	2024年12月期	2025年12月期 (計画)				
	実績	上期予想	下期予想	通期予想	対前年増減	前年比
売上高	15,924	8,344	9,574	17,919	+1,995	+12.5%
リード端子事業	8,403	4,498	4,799	9,298	+894	+10.6%
光部品・デバイス事業	7,520	3,846	4,775	8,621	+1,100	+14.6%
営業利益	3,939	1,920	2,665	4,586	+646	+16.4%
営業利益率	24.7%	23.0%	27.8%	25.6%	+0.9pt	-
リード端子事業	403	326	420	746	+343	+85.1%
光部品・デバイス事業	3,536	1,594	2,245	3,839	+303	+8.6%
経常利益	4,856	1,623	2,850	4,474	△382	△7.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,252	1,082	1,924	3,006	△245	△7.6%
1株当たり当期純利益(円)	120.50	150.00	150.00	150.0		
為替レート(期中平均)	151.69円/\$	150.00円/\$	150.00円/\$	150.00円/\$		

## ● 業績予想の根拠

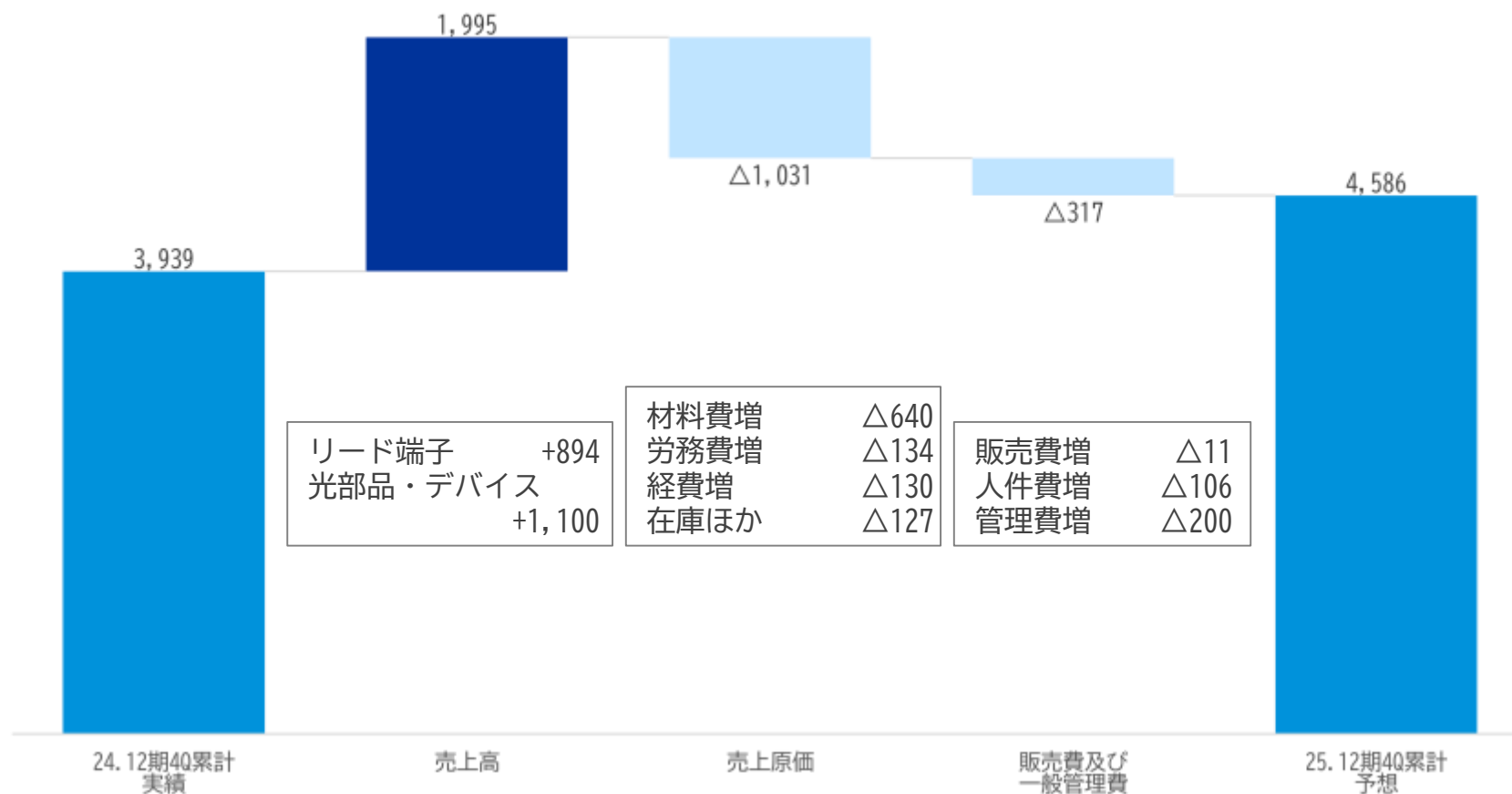
- リード端子事業：生成AI・データセンタ市場の持続成長と自動車用エレクトロニクス市場の春以降の回復を見込む
- 光部品・デバイス事業：海底ケーブルプロジェクトの増加、多芯化の進展に加えてデータセンタ向けFR製品(※)受注急増

※<為替感応度>は、1米ドルに対して1円の変動が1年間続いた場合の試算値です ※<FR製品>は、光の偏光方向を回転する光学素子(ファラデー回転子)です

# 2025年12月期業績(営業利益)の見通し

リード端子、光部品・デバイスの主力2事業が売上増と営業増益に貢献

(単位：百万円)



# 設備投資・減価償却・研究開発

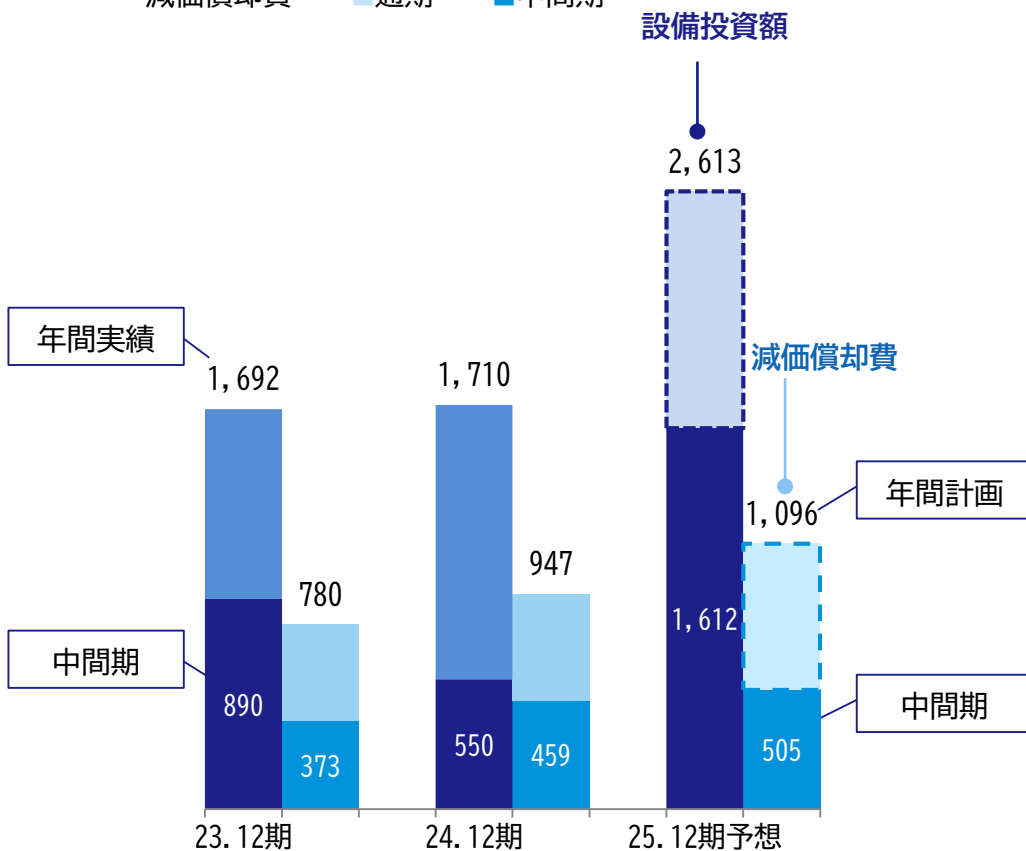
研究開発費はおおむね期初計画どおりの進捗

設備投資は、光部品・デバイス事業の投資が後ズレし、25年12月期に計上

## 設備投資・減価償却費（百万円）

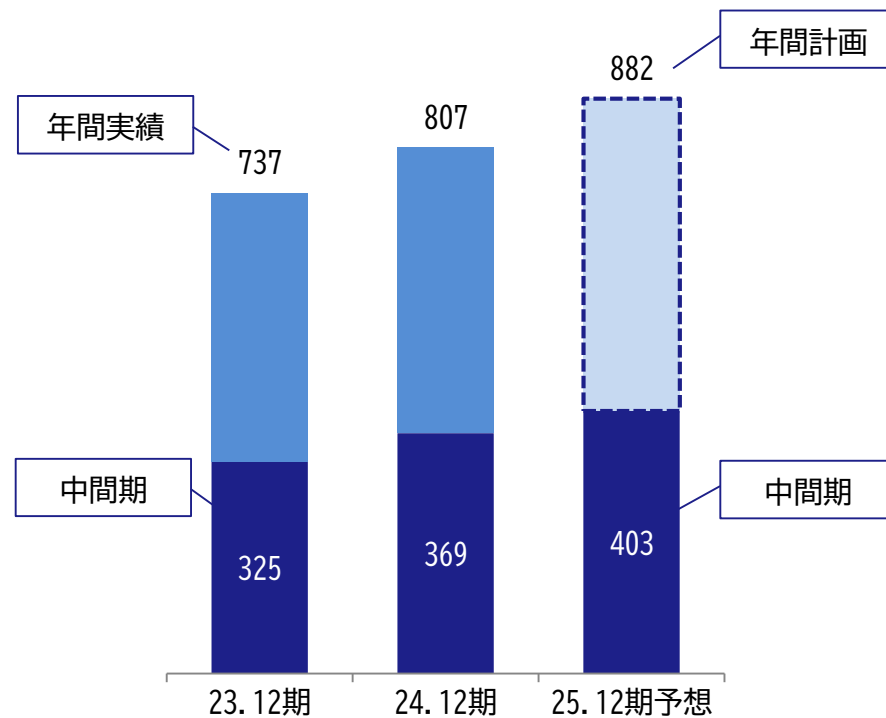
設備投資額  
減価償却費

■ 通期 ■ 中間期  
■ 通期 ■ 中間期



## 研究開発費（百万円）

■ 通期  
■ 中間期



## Ⅱ. 中期経営計画 成長戦略

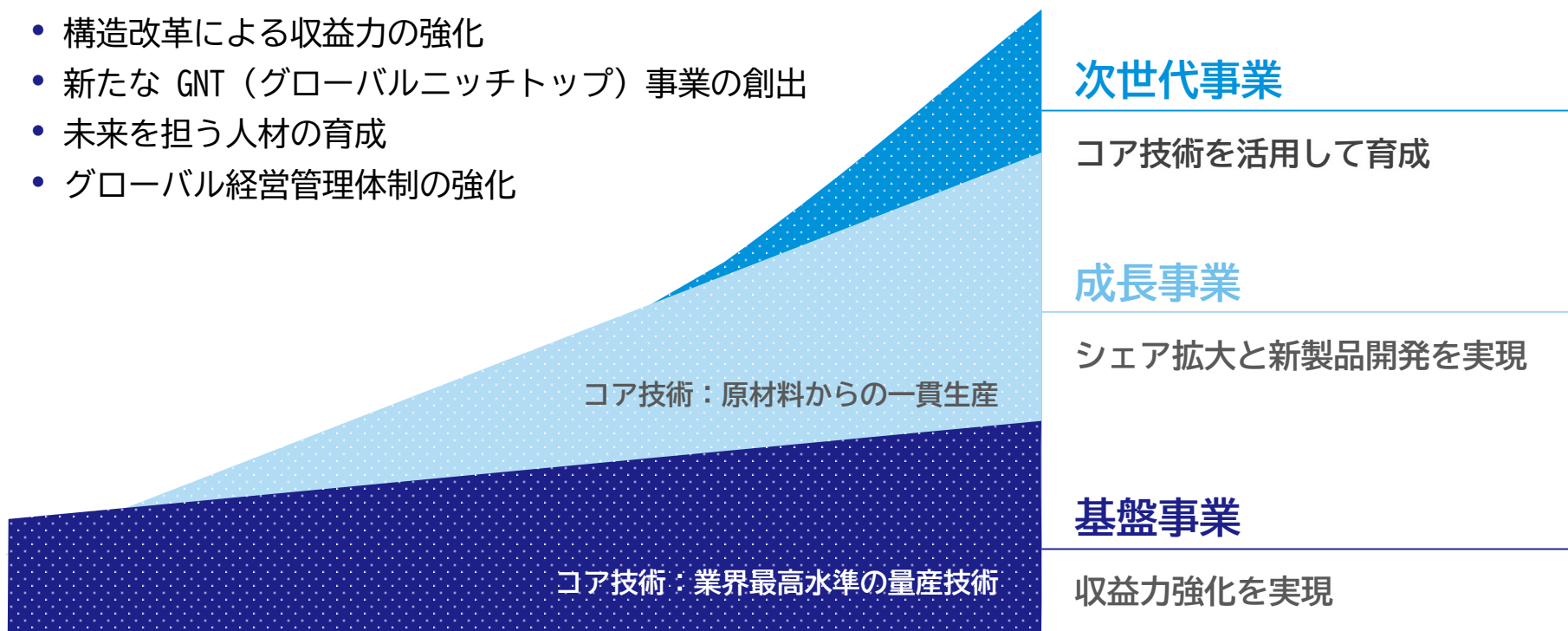
# 中期経営基本方針

## 経営ビジョン

オンリーワン企業の実現に資する研究開発、技術開発等を遂行していき、高収益事業を構築していく

## 中期経営基本方針

- 市場開拓による事業規模の拡大
- 構造改革による収益力の強化
- 新たな GNT（グローバルニッチトップ）事業の創出
- 未来を担う人材の育成
- グローバル経営管理体制の強化



# 2024年12月期の振り返り

中期経営基本方針		重点施策	実施事項、目標KPI	2024年12月期の実績
リード端子	市場開拓による事業規模の拡大	●新製品（バリレス等）のグローバル拡販、売上増強	●新商品売上比率 2026/12期 30%	●2024年実績 15.4%
		●中国市場の深耕、売上増強 ●ハイブリッドタイプ・電気二重層キャパシタ向け	●車載市場向け市場シェア95%維持によるグローバル売上拡大	●車載市場（駆動系）向け推定シェア95%維持 ●車載（駆動系）向け高機能商品拡販強化
	構造改革による収益力の強化	●グローバルでの最適生産化（サプライチェーン・消費地生産・価格・コスト面での最適化）	●海外生産拠点における生産能力増強と生産性向上（本社工場は高機能製品に特化）	●生産能力増強：中国東莞工場（主力工場の位置づけ） ●生産性向上：歩留り向上・工程改善とOEE向上
		●レーザー溶接を基軸とした新製品の開発	●2024年開発、2026年より量産開始	●景況悪化でハイブリッドコンデンサの本格増産に至らず
	●リード端子の高付加価値品開発（アルミ電解コンデンサの特性向上&歩留まり向上への寄与）	●設備総合効率(OEE) 85%達成 ●ROI改善に向けた取り組み	●歩留り向上・工程改善とOEE向上（83.4%による製造原価低減） ●漏れ電流向上対策品の増強と低抵抗品の開発	
光部品・デバイス	市場開拓による事業規模の拡大	●次世代海底ケーブルのプラットフォームづくりに関わり、ワンストップソリューション提供による販売拡大	●複合化、モジュール化など新製品の売上高比率：2026/12月期に20%	●2024年第4四半期に予定通りサンプル出荷済み
		●新しいコア技術や応用分野の研究開発	●研究開発費：2026/12月期に650百万円	●2024/12月期実績 696百万円
	構造改革による収益力の強化	●生産の自動化による生産性向上	●2024年：自動化の第2段階投資 ●2025年：光アイソレータ組み立て工程の80%を自動化	●自動化投資は2025年6月にずれ込み、年度末80%自動化予定
●生産のマルチライン化による強靱化		●2024年：構想検討 ●2026年：第2拠点の着手	●継続検討中	

# 2027年までの中期経営指標

主力2事業の競争力をさらに高め、加えて第3の事業を成長軌道に乗せる

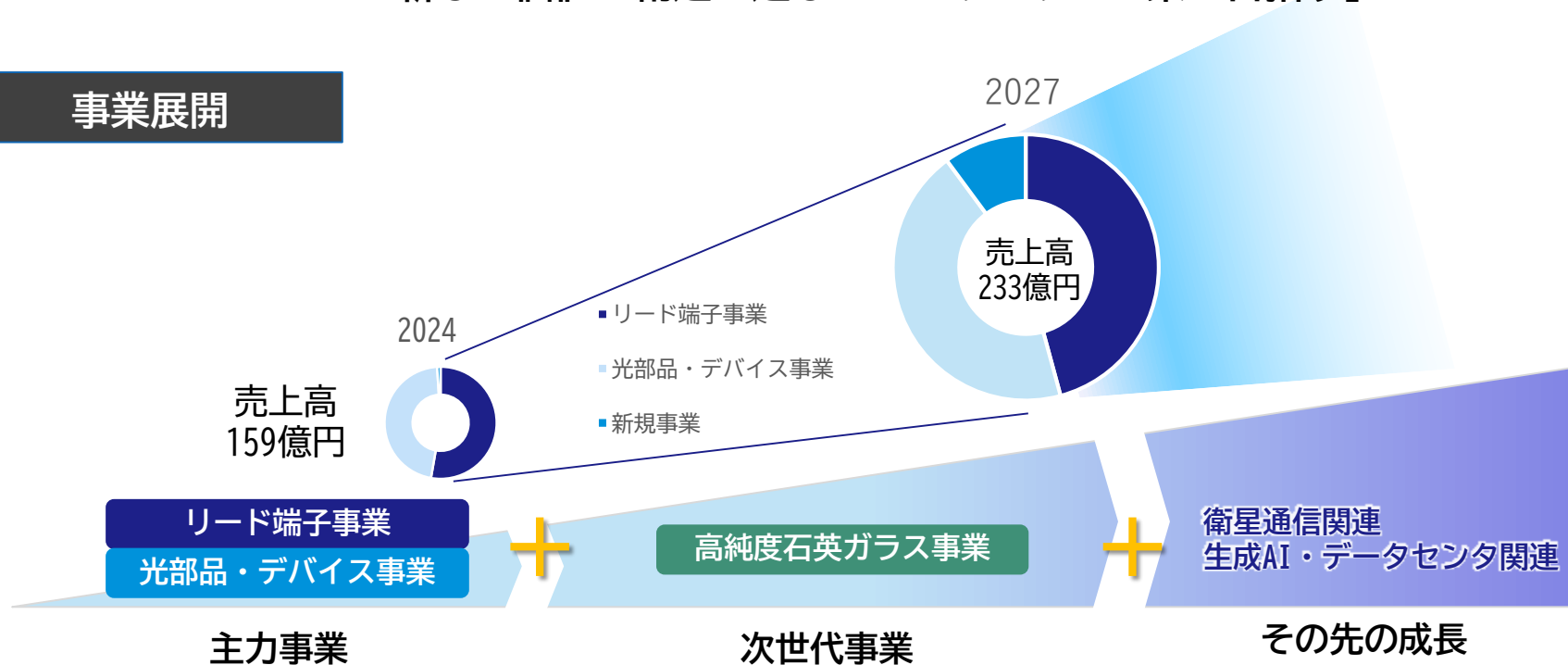
		2024.12期 実績	2027.12期 中期経営計画
成長性	売上高	159億円	233億円
収益性	営業利益	39億円	73億円
投資	設備投資	3年間の累計 約43億円	今後3年間で約94億円 (米原駅前新拠点54億円)
効率性	ROIC	12.2%	16%
	ROE	15.0%	18%
株主還元方針		連結配当性向：30%目標 DOE：3%以上	連結配当性向：30%目標 DOE：3%以上

# 目指す姿・事業ポートフォリオの考え方

経営理念

「豊かな個性を尊重する全員参加型の経営を実践し、  
新しい価値の創造を通じてオンリーワン企業を目指す」

事業展開



経営体制  
の強化

ガバナンス強化

- 監査等委員会設置会社へ移行、サステナビリティ活動強化
- プライム市場に向けた体制強化

米原新拠点構想

- 第3、第4の柱育成の為に中核技術拠点
- 利便性改善による採用拡大と顧客アクセス向上

その他

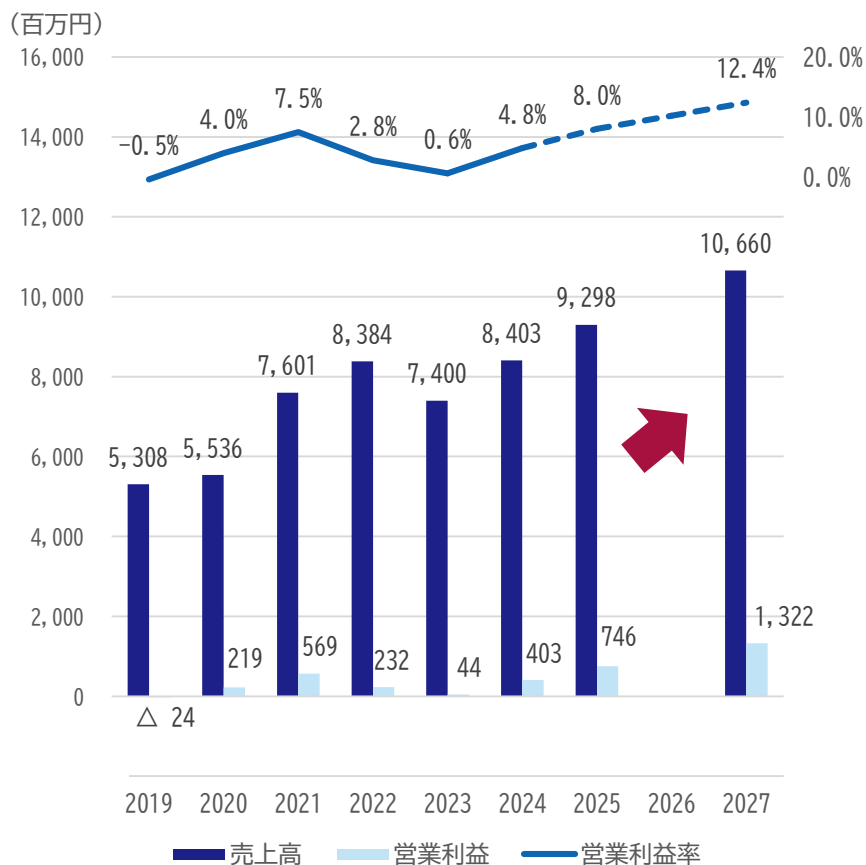
- 事業部門別のROIC改善に向けた取り組み強化
- 従業員のモチベーションアップ、業績意識の向上ほか
- リード端子、光部品・デバイス他営業体制強化



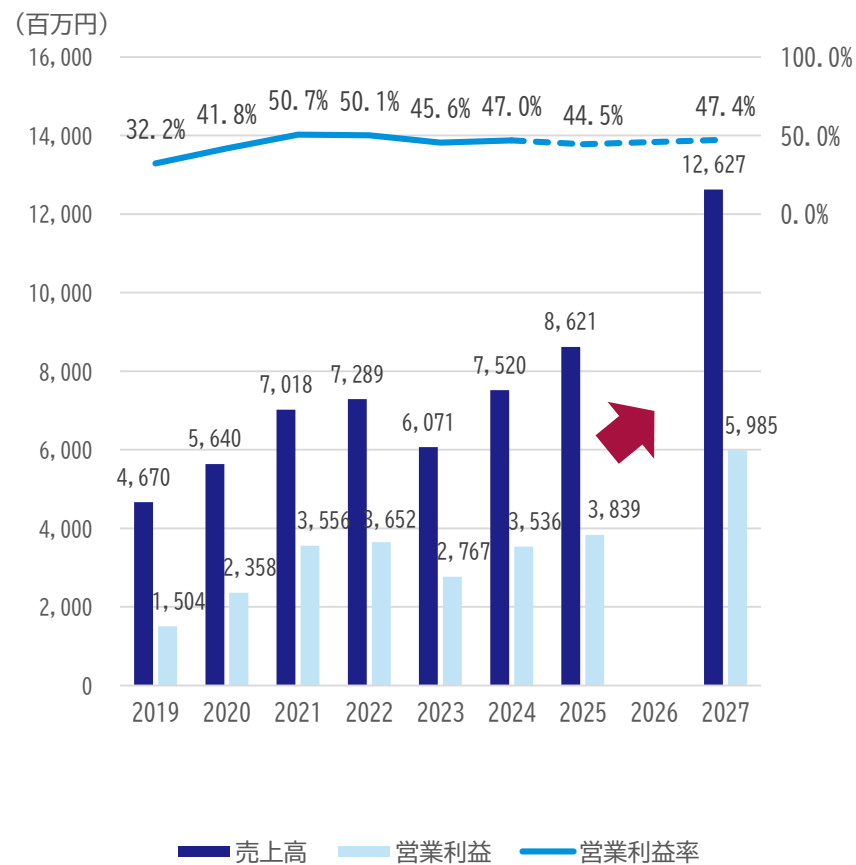
# セグメント別の業績イメージ

主力2事業の成長に加えて高純度石英ガラス（SSG®）事業の貢献により、3年間で約1.4倍の売上を目指す

## リード端子事業



## 光部品・デバイス事業(高純度石英ガラス事業等を含む)



# 戦略・取組み（リード端子事業）

市場の変化を先取りする営業体制の強化と、生産効率改善により市場シェアの拡大と収益力改善を推進

中期経営基本方針	重点施策	実施事項、目標KPI
市場開拓による事業規模の拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市場情報や顧客情報収集によるマーケティングの強化</li> <li>● 既存品の価格是正および高付加価値品の販売強化</li> <li>● リード端子の高付加価値製品の開発</li> <li>● レーザー溶接を基軸としたコア技術新商品の開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自動車・生成AI、海外市場に重点を置いた事業の拡大</li> <li>● アジア地域での営業・拡販体制強化</li> <li>● バリレスの拡販（新設計アルミ電解コンデンサの採用強化）、漏れ電流向上対策品の増強と低抵抗品の販売強化による高付加価値製品販売比率目標 30%</li> <li>● レーザー溶接技術によるEDLC用、リチウムイオンキャパシタ用新製品を2026年量産開始</li> </ul>
構造改革による収益力の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 工程の課題（切替・修理・チョコ停）解決によるOEE改善と原価管理の強化</li> <li>● 品質ゼロディフェクトを目指した教育訓練の強化</li> <li>● 材料品質確保の徹底</li> <li>● 既存サプライヤーの支援・育成によるQCDSの向上</li> <li>● サプライヤーのマルチソース化推進</li> <li>● 事業部門別ROI改善への取組みを強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 製造原価比率改善（24年実績79.5%→27年 71.2%）</li> <li>● 歩留り向上・工程改善強化、切替ロス削減等の施策により全工場での設備総合効率(OEE)改善（27年度90%達成目標）</li> <li>● 多能工化、IoT活用等による製造工程でのレベルアップ</li> <li>● 技能伝承教育の強化による若手社員の育成</li> <li>● 海外材料メーカーとの育成・指導を含めた品質水準底上げ、調達安定化</li> </ul>

# 戦略・取組み（光部品・デバイス事業）

お客様とのパートナーシップ強化と自動化やマルチライン化を通して、さらなる売上と収益の強化を図る

中期経営基本方針	重点施策	実施事項、KPI
市場開拓による 事業規模の拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>● お客様への技術サポートを強化「顧客からパートナー」へ進化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● お客様との技術面での連携を強化し、価格戦略と合わせて市場シェアを60%以上に拡大</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新しいコア技術や応用分野の研究開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● マルチコアファイバ化を見据えた研究開発</li> <li>● 生成AI、データセンタ需要向け高速光スイッチ開発</li> <li>● 宇宙分野（光デバイス）、生成AI、データセンタ市場（高速光スイッチ、光部品）を開拓</li> </ul>
構造改革による 収益力の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生産の自動化による生産性向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2025年 光アイソレータ組み立て自動機（2号機）を導入</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生産のマルチライン化による強靱化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2025年：スリランカでの自動生産比率を80%に引き上げ、マルチライン化の体制作り</li> <li>● 2026年～：第2拠点設置に着手</li> </ul>

## 中期計画 共通課題・非財務への取り組み

長期的視野で、持続的な安定成長に向けての体制を強化

2025年3月監査等委員会設置会社に移行し、ガバナンス体制を強化

### その他の取り組み

- 経営指標（経営目標/KGI/KPI/組織目標）のPDCAサイクルを機能化
- 内外環境分析（経済分析、市場分析、業績分析、財務分析等）を共有、各種戦略の遂行を支援
- グローバル人材の抽出・育成
- 人事管理システムの刷新と人事制度改革
- リスクマネジメント、コンプライアンス、BCPへの対応力強化
- Scope3対応に向けた温室効果ガス排出量の算出プログラム構築
- 社員が働きやすい職場環境の整備（現場の安全対策工事、セキュリティ強化など）

# 米原駅前新拠点構想

JR米原駅東口に約14,000平方メートルのビジネス用地を取得

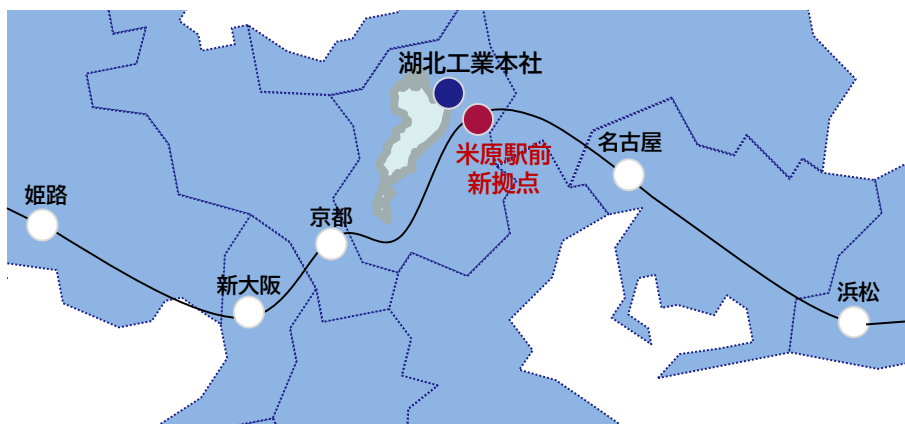
## 目的

- 新幹線米原駅徒歩2分の好立地を活かして技術者ほかの採用を拡大、次世代テクノロジーの中核拠点として活用

## 用途

- 高純度石英ガラス事業、PLZTデバイスほか、次世代に向けての研究開発拠点、管理系部門オフィスとして活用予定

### 新幹線利用で通勤可能な範囲が大幅に拡大



西は兵庫県、東は静岡県まで通勤可能  
米原市から新幹線通勤代半額補助あり



- 2027年 第1期工事竣工、稼働開始予定
- 建物デザイン、建築面積等は現時点では未定
- 土地取得約6億円（24.12期に計上済み、建築費用として中期計画に54億円を計上）

## <第3の柱> 高純度石英ガラス「SSG®」 事業の進捗状況

セミコンジャパンに初出展、各方面から大きな反響

### <SSG®製品の引き合い状況>

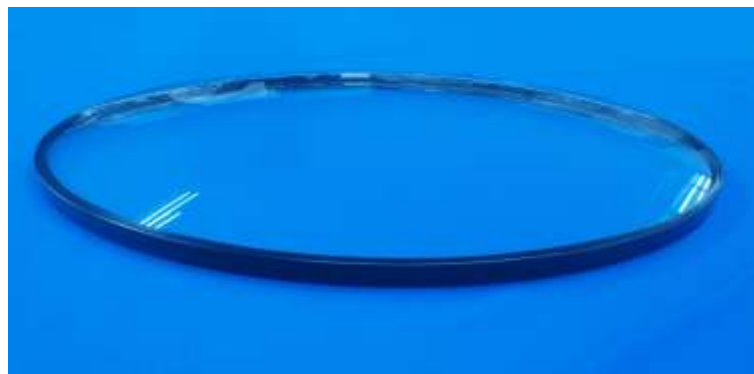
- ◆ 米国、日本の大手半導体製造装置メーカー、石英ガラスメーカー等から引き合い、サンプル要求活発化
- ◆ 半導体関連装置の高機能化、各種産業機器などの省エネルギー化への貢献に期待

24' 12/11~12/13 SEMICON Japan 2024に出展!



### <半導体製造装置に応用される各種高純度石英ガラス製品の例>

半導体関連装置、  
産業機器向けなどに  
形状ラインアップを  
大幅に拡大中



半導体製造装置等用セミドーム



半導体製造装置用大型リング

# 高純度石英ガラス事業の中期計画

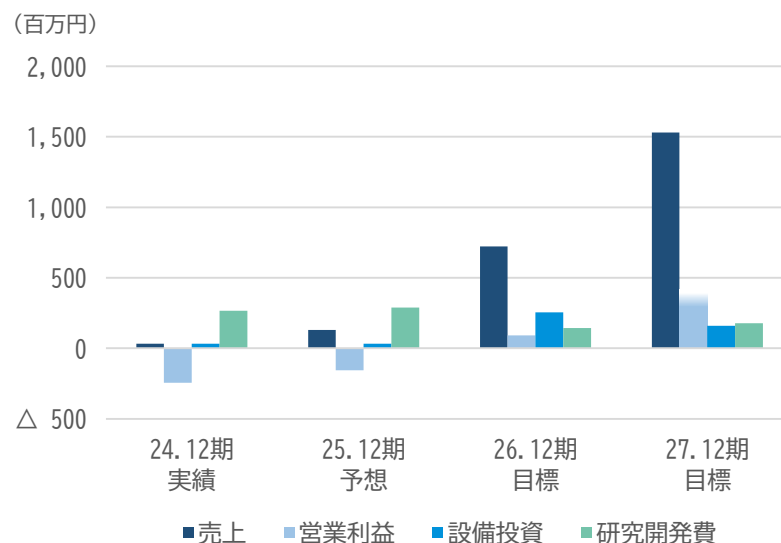
2027年までに事業基盤を強化し、中長期での売上成長トレンドを確立する

## <中期計画における実施事項、課題>

テーマ	課題、実施事項
開発力強化	金型設計、試作シミュレーション技術等のレベルアップによる開発期間の短縮
	用途の多様化に合わせた形状ラインアップの拡大
営業、マーケティングの強化	グローバル顧客に対する営業体制強化
	展示会出展、顧客技術サポート
生産体制	焼結炉ほか生産設備増設
	BCP体制構築

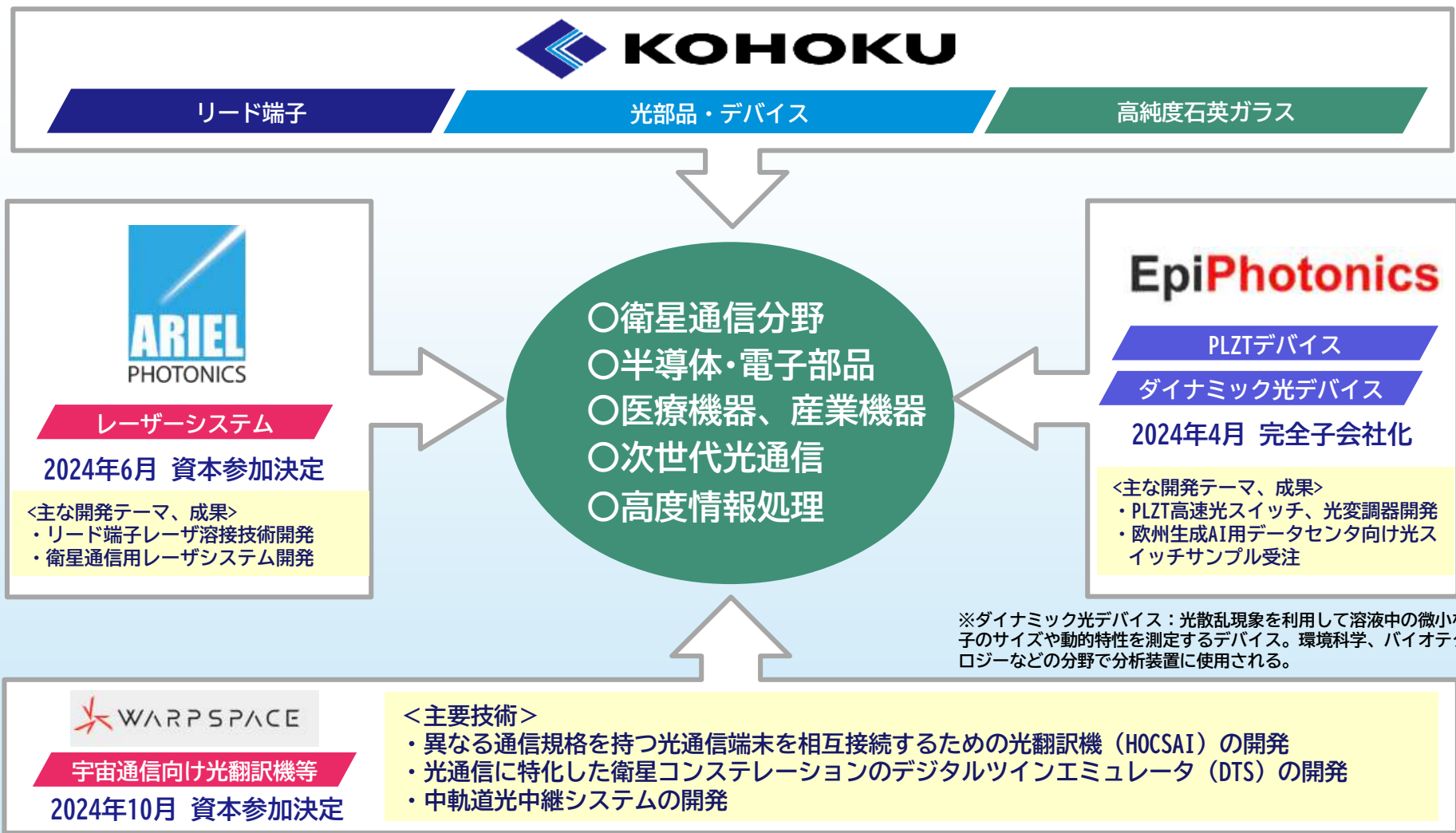
## <中期計画における業績目標>

- 2027年、年間売上15億円の計画
- 2025年～2027年、設備投資額約5億円、研究開発費約6億円を投入、併せて人員増強を進める
- 中長期の目標として、売上高100億円以上を目指す



# 新たなGNT（グローバルニッチトップ）事業の創出

技術の連携により新たな分野を切り開き、長期的な成長を目指す。

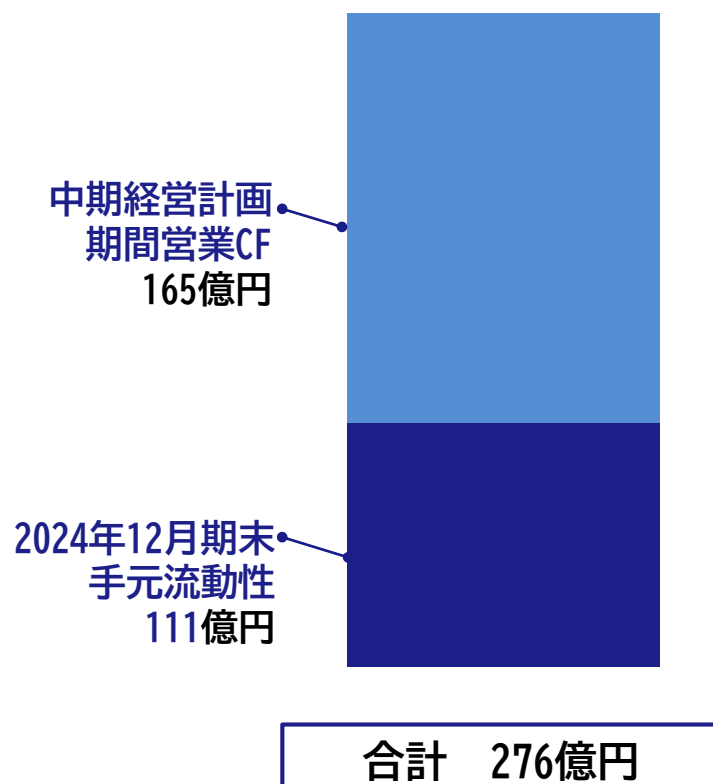




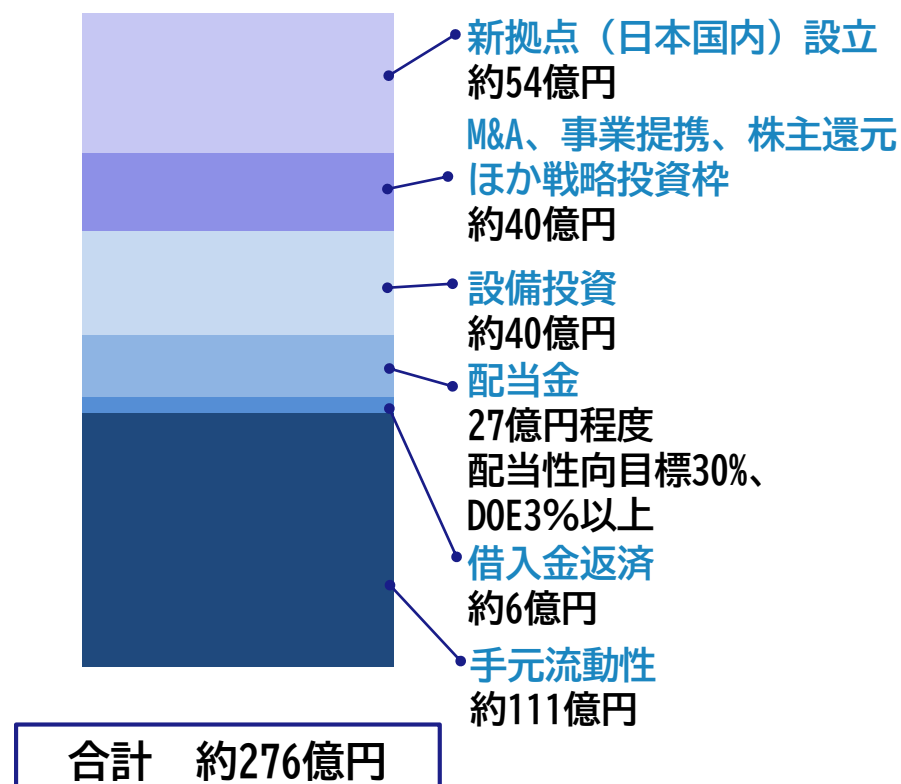
# 財務戦略・キャピタルアロケーション

果断な成長投資と株主還元の均衡点を探る

## 原資



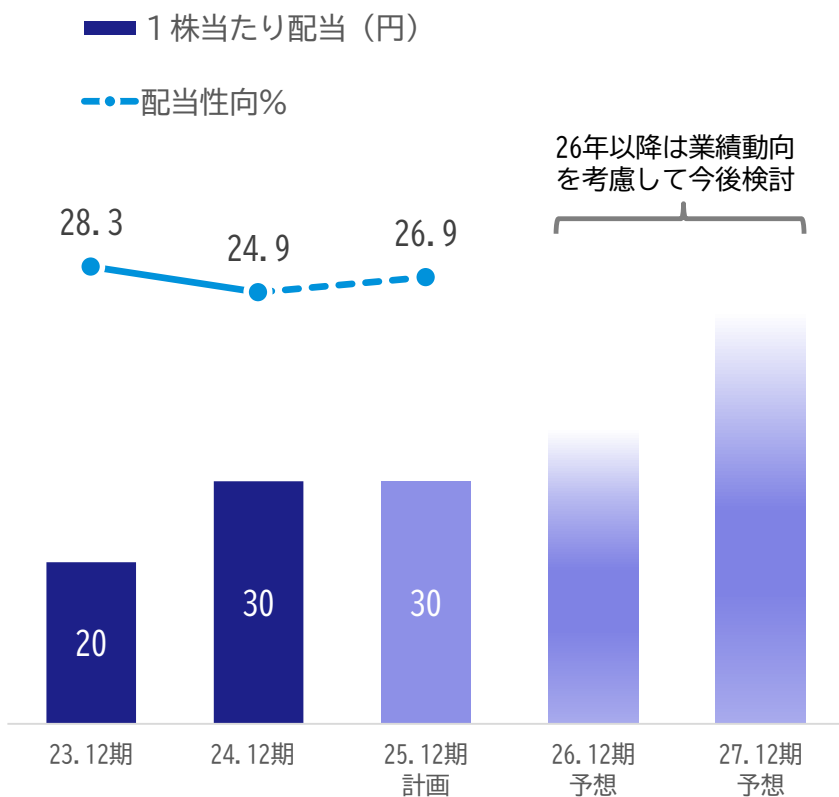
## 活用



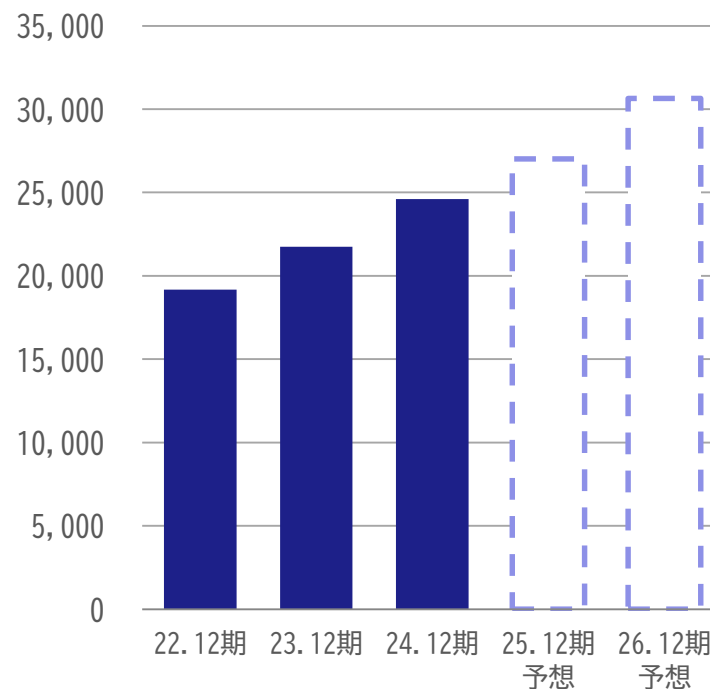
# 株主還元方針

- ① 連結配当性向は、引き続き30%を目標とする
- ② 併せて、安定配当のニーズを踏まえ、D0E3%以上を基準とする

## 配当金の推移



## 自己資本の推移 (百万円)



# サステナビリティ

## サステナビリティ委員会の活動を開始、今後テーマ・KPIの見直し、進捗管理を強化

	取組課題	実績、活動内容	ワーキンググループ 開催状況
環境WG	C02排出量の削減① エネルギー消費量（原単位）の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>各サブWGでC02削減に貢献できる新製品の開発テーマ検討</li> <li>2024年C02排出量：14,803t（前年比+9.7%）、単売上当たり0.93t（前年比-7.2%）</li> </ul>	<WG開催> 1回 <サブWG開催> 計4回
	C02排出量の削減② 再生可能エネルギーの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>2024年6月から木質バイオマス発電を導入（事務所照明等の低圧電気が対象）</li> <li>2024年8月から再生可能エネルギーの導入により本社でのゼロエミッション達成</li> </ul>	
社会WG	人権の尊重、ダイバーシティ & インクルージョン	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康習慣フィードバックセミナー(11月実施)</li> <li>ヘルシーライフプロジェクト</li> <li>福利厚生充実の一環として、フィットネス活動支援制度を設置</li> </ul>	<WG開催> 3回開催
	人材マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格取得支援インセンティブ制度の導入</li> <li>物価上昇、従業員のモチベーションアップを考慮し、4.15%の賃上げ、年間賞与6.25か月に支給額アップ</li> <li>有給休暇取得率：78.4%、男性社員の育児休業取得率：75.0%</li> <li>滋賀大学インターンシップ受け入れ、本社及びスリランカ工場での研修を実施</li> </ul>	
	災害復興、環境保全関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>能登半島地震義援金：1,000万円</li> <li>山門水源の森保全へのボランティア活動実施（計37名が参加）</li> <li>伊吹山の自然環境復元に向けた植生回復プロジェクトへの寄付：3,000万円</li> </ul>	
	地域貢献、文化活動支援等	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域支援：長浜曳山祭り、地域でのコンサート、地域の図書館運営支援、地域の暴力団追放推進支援など</li> <li>教育機関への支援・連携：長浜農業高校、長浜バイオ大学、滋賀県立大学未来人材基金ほか</li> </ul>	
ガバナンスWG	コーポレートガバナンスコードの実効性評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>CGコードの全原則（83項目）に関する実効性再評価</li> <li>監査等委員会設置会社への移行によるガバナンスの強化</li> </ul>	<WG開催> 6回開催
	業務標準化の推進、内部統制の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>2024年8月 全社主要規程見直しと内部監査組織強化による牽制機能強化</li> </ul>	

※サステナビリティ推進委員会全体会議は年2回開催（2月、8月）

### Ⅲ. セグメント別の状況

# セグメント別業績(4Q累計) - リード端子

生産拠点の再配置と生産効率改善、取引見直し等により利益率が大幅改善

(単位：百万円)

	2023年12月期	2024年12月期			2024年12月期					
	4Q累計 (1月-12月)	4Q累計 (1月-12月)	前年比		1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	3Q (7月-9月)	4Q (10月-12月)	直前四半期比	
売上高	7,400	8,403	+1,002	+13.6%	1,929	2,157	2,198	2,118	△80	△3.7%
営業利益	44	403	+358	+799.3%	△13	132	177	107	△70	△39.6%
営業利益率	0.6%	4.8%	+4.2pt	—	△0.7%	6.2%	8.1%	5.1%	△3.0pt	—

## 2024年12月期（4Q累計）の概況

### ● 市況は回復のあと再び調整局面へ

- 自動車用エレクトロニクス市場では、後半に入り、在庫調整が一段落したことによる回復が見られたが、その後は欧州EV市場における普及の停滞や、中国における需要の鈍化などの影響により再び調整局面となった
- 情報通信機器市場などは、企業におけるAIサーバーを中心とするIT需要の拡大により好調に推移

### ● 当社の状況と収益改善への取り組み

- 主力の中国蘇州工場を移転後、グローバル生産体制の最適化と東莞・マレーシア工場の技術力改善を進めた
- 歩留り・可動率改善、切替ロス削減により設備総合効率（OEE）を改善
- 対振動特性や絶縁特性を大幅に改善した「バリレス」や、EDLC(電気二重層キャパシタ)向け新製品を拡販

# 2024年12月期当初想定vs現在の状況比較 - リード端子

## 1. お客様、市場調査会社等からの情報に基づく当社の認識

	2024/12期予想（当初コメント）	2024/12期実績	2025/12期見通し
(1) アルミ電解コンデンサ市場全体 (主に日系顧客の状況)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 在庫調整は春までに終了し、その後回復の見通し</li> <li>● 自動車市場は引き続きEVの普及を見込むが中国他景気後退懸念により緩やかな回復を予想</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 後半に入り、在庫調整が一段落したことによる回復が見られた</li> <li>➢ その後は欧州EV市場における普及の停滞や、中国における需要の鈍化などの影響により再び調整局面となった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 足元は欧州車載市場向けなどがまだら模様だが、4月以降は回復の予定</li> </ul>
(2) 用途別の動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自動車用ハイブリッドコンデンサ向けリード端子の売上、前年比3倍を見込む</li> <li>● 情報通信機器、民生市場向けは在庫調整からの回復を見込むが、需要は低迷が続く予想</li> <li>● 生成AI市場の牽引などにより、年後半、回復に向かう見通し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 欧州EV市場における普及の停滞や、中国における需要の鈍化などの影響により再び調整局面となった</li> <li>➢ 情報通信機器市場などは、企業におけるAIサーバーを中心とするIT需要の拡大により好調に推移</li> <li>➢ 生成AI・データセンタ向けを中心とするIT需要の拡大により好調に推移</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 欧州車載の底打ちに加えてトヨタの生産回復もあり、1Qから堅調を維持</li> <li>➢ 生成AI、データセンタ向けアルミ電解コンデンサ市場は安定して伸びる見通し（前年比2ケタ増を期待）</li> <li>➢ その他、産機、一般民生は厳しい状況が続くと予想</li> </ul>

# 2024年12月期当初想定vs現在の状況比較 - リード端子

## 2. 当社の経営環境

	2024/12期予想（当初コメント）	2024/12期実績	2025/12期見通し
(1) 生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 蘇州、東莞、マレーシア各拠点での生産効率改善による収益力強化、品質改善を進める</li> <li>● OEE 85%目標</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 東莞での生産体制を増強</li> <li>➢ OEE目標は若干の未達、歩留まり向上・工程改善等の施策に取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 東莞をさらに増強し収益力を改善（2025年年間生産比率KECD50%、KECS30%、KEM20%）</li> <li>➢ 引き続き歩留り・可動率改善、切替ロス削減を進める</li> </ul>
(2) 売上	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高機能コンデンサ向けリード端子の売上予想</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 新製品「バリレス」の売上は目標に届かずだが、ハイブリッドコンデンサ等新製品向けに評価活動進捗</li> <li>➢ ハイブリッドコンデンサ、EDLCなどの高機能コンデンサ向けに高付加価値品の売上は増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 海外自動車市場に向けての顧客サポート、マーケティングを強化</li> <li>➢ バリレスほか、漏れ電流低減・低抵抗に貢献する高機能リード端子の販売を強化</li> </ul>
(3) 技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>● OEE 85%目標</li> <li>● レーザー溶接製品サンプル出荷開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ レーザー溶接技術、イスラエルARIEL社での開発サンプル試作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 量産品試作に向けて開発拠点を本社に移管</li> <li>➢ 漏れ電流低減リード端子の開発</li> </ul>



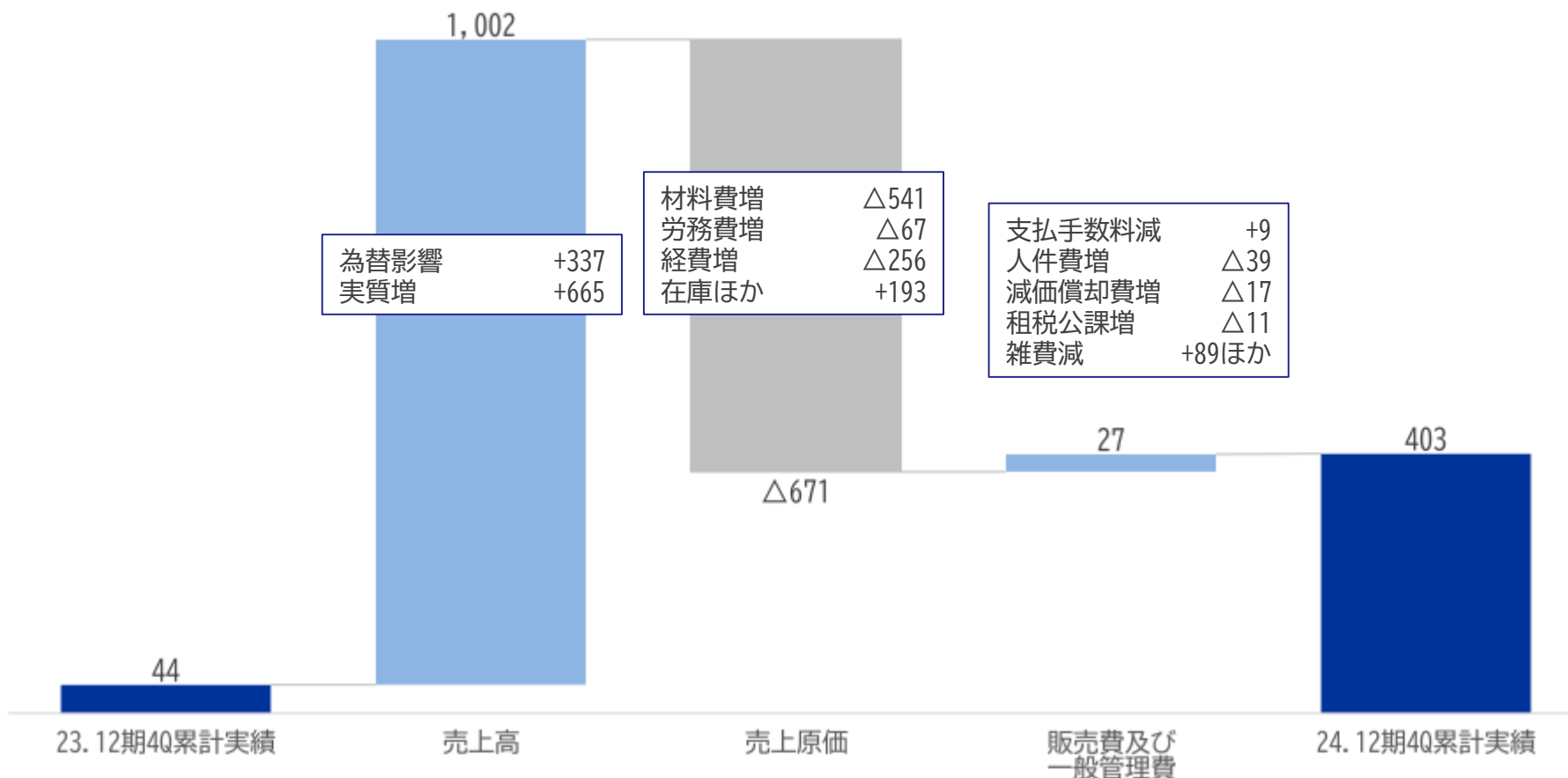
（開発中のレーザー溶接機）

セグメント別

# 営業利益(4Q累計)の増減要因 (前年比) - リード端子

材料費などの高騰を売上増で吸収し、営業利益が回復

(単位：百万円)





# リード端子事業の見通し

自動車関連市場回復、AI市場成長に伴う売上増加と、収益性改善により増収増益となる見通し

## セグメント業績

(単位：百万円)

	2024年12月期	2025年12月期（通期）				対前年増減	前年比
	実績	上期予想	下期予想	通期予想			
売上高	8,403	4,498	4,799	9,298	+894	+10.6%	
営業利益	403	326	420	746	+343	+85.1%	
営業利益率	4.8%	7.2%	8.8%	8.0%	+3.2pt	—	

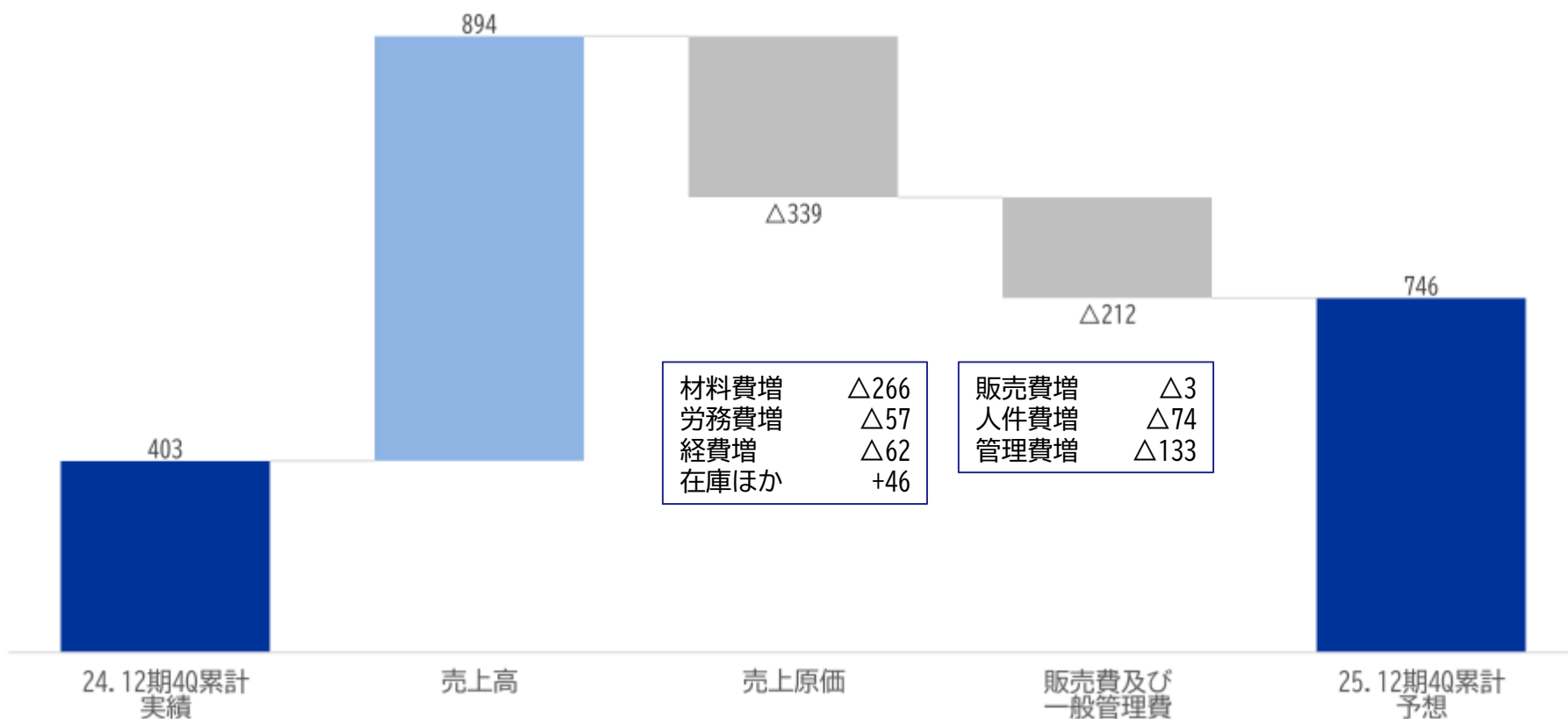
## 2025年12月期の見通し

- 欧州車載の底打ちに加えて日系自動車メーカーの生産回復もあり、4月以降前年比プラスに転じる見通し
- 東莞での生産能力アップと生産効率、品質改善を進める
- ハイブリッドコンデンサ向けの増加を見込む

# セグメント別営業利益の増減要因（予想） - リード端子

市場回復と新製品売上拡大、効率改善により、増収増益を見込む

(単位：百万円)



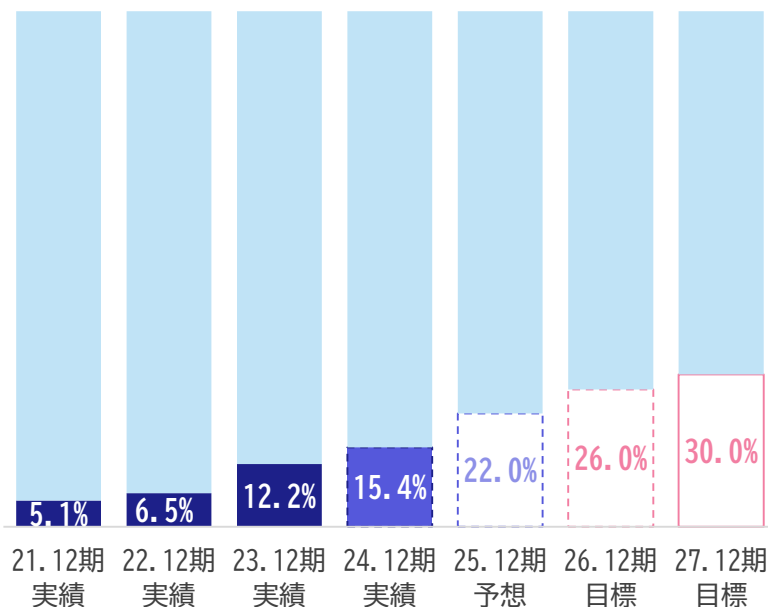
# 市場開拓による事業規模の拡大

高付加価値製品の売上比率改善、自動車市場向け販売を強化

## 高付加価値製品の売上比率

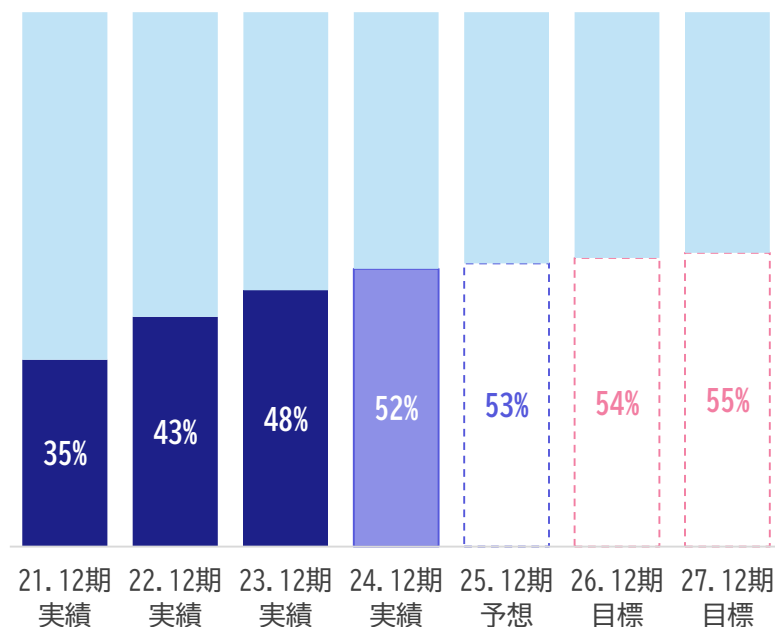


- ・売上比率は緩やかに上昇
- ・バリレスはハイブリッドコンデンサ向けに挽回
- ・EDLCリチウムイオンキャパシタ向けなどラインアップ強化を進める



## 自動車市場向け売上比率（推定値）

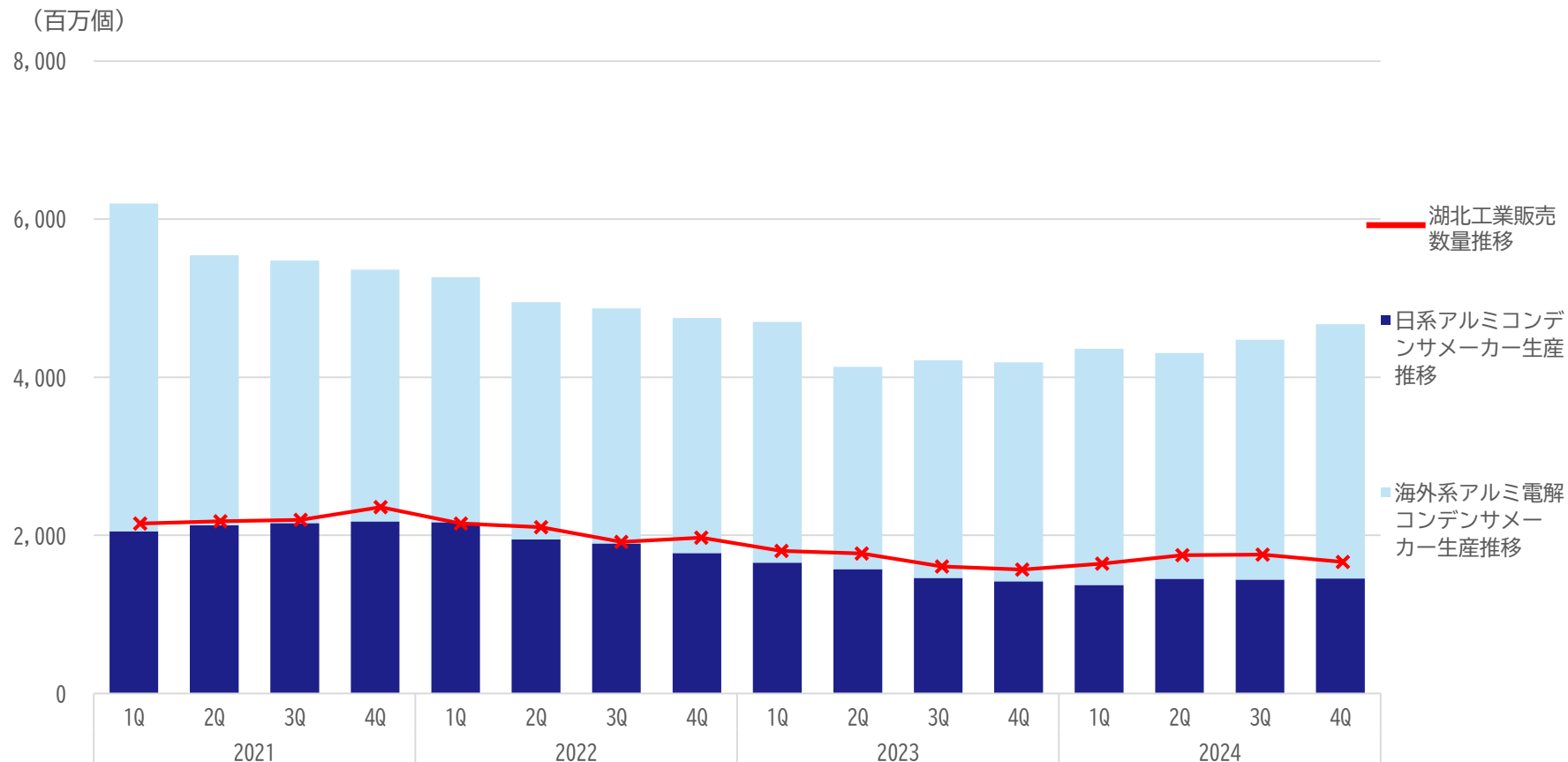
- ・車載市場向けグローバルマーケットシェア95%維持
- ・海外車載市場での拡販を進める



# 2024年12月期の事業環境

アルミ電解コンデンサのグローバル生産、調整が終了し回復傾向

小型アルミ電解コンデンサのグローバルマーケットと当社の販売数量推移



※リード端子はコンデンサ1個あたり2個仕様の為、コンデンサ数量に換算して表示  
 ※アルミ電解コンデンサ生産数量は各四半期ごとの最終月の実績、リード端子販売数量は四半期における月平均（当社推定）

# セグメント別業績(4Q累計) - 光部品・デバイス

在庫調整一巡、海底ケーブルへの投資再開等により受注が急速に回復し、増収増益

(単位：百万円)

	2023年12月期	2024年12月期			2024年12月期					
	4Q累計 (1月-12月)	4Q累計 (1月-12月)	前年比		1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	3Q (7月-9月)	4Q (10月-12月)	直前四半期比	
売上高	6,071	7,520	+1,448	+23.9%	1,484	2,136	2,231	1,668	△563	△25.3%
営業利益	2,767	3,536	+768	+27.8%	649	1,020	1,208	658	△550	△45.5%
営業利益率	45.6%	47.0%	+1.4pt	—	43.7%	47.7%	54.2%	39.5%	△14.7pt	—

## 2024年12月期（4Q累計）の概況

### ● 業界・市場動向

- 海底ケーブル向け市場は、一昨年からの海底ケーブルプロジェクトの延期などの影響による調整が一巡したこと、世界的な通信インフラ強化の流れに伴う新たな海底ケーブルプロジェクトが発表されたことなど、需要の先行き見通しが改善
- 需要が急速に増加し、市場が回復傾向をたどったものの、後半は一部顧客の在庫調整が見られた

### ● 外部環境の変化とその対応

- 海底ケーブル用光デバイスの受注急増に合わせて、スリランカ工場での生産体制を增強
- マルチコアファイバ用光部品では、光アイソレータ機能を内蔵したファンイン／ファンアウト製品を開発、学会にて発表
- 新規事業として位置づけている高純度石英ガラス（SSG®）製品の引き合いが順調に増加

# 2024年12月期当初想定vs現在の状況比較

## 1. 市場環境、受注動向

	2024/12期予想（当初コメント）	2024/12期実績	2025/12期見通し
(1)市場動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 光アイソレータは堅調が続く見通し</li> <li>● 光フィルタは年央から回復の見通し</li> <li>● 後半は、長期視点の海底ケーブルプロジェクトによる回復を見込む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 海底ケーブル向け光アイソレータ、光フィルタの受注増</li> <li>➢ 後半に一部顧客の在庫調整が発生</li> <li>➢ データセンタ向け光部品の需要が急増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 海底ケーブル向け光アイソレータ、光フィルタ共に堅調な売上が続く見通し</li> <li>➢ データセンタ増に伴い海底ケーブルプロジェクトも増加を予想</li> <li>➢ データセンタ向け光部品の需給ひっ迫が続く見通し</li> </ul>

## 2. 当社の経営環境

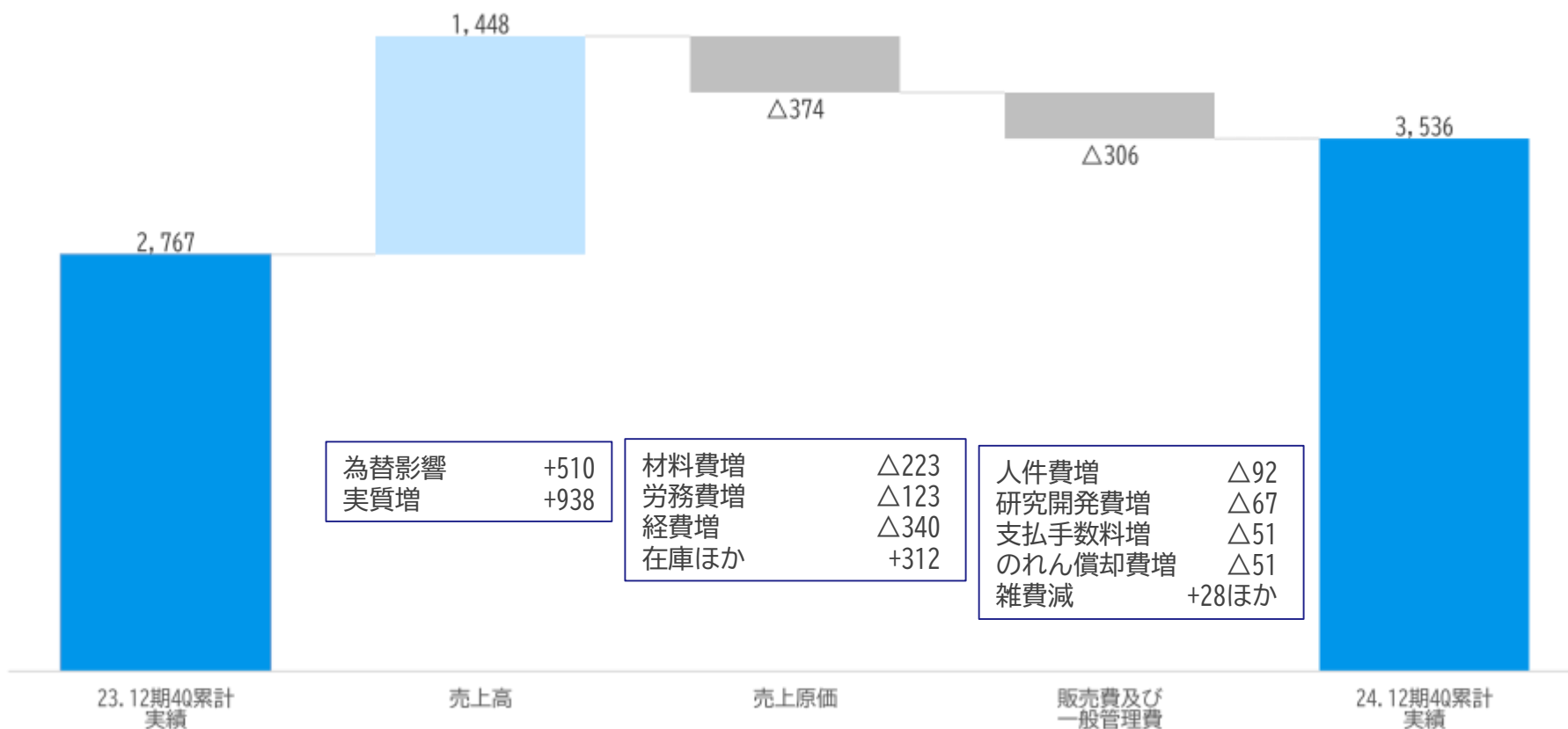
	2024/12期予想（当初コメント）	2024/12期実績	2025/12期見通し
(1)製品開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 複合デバイス新製品。24年後半に量産サンプル出荷。25年売上貢献に期待</li> <li>● 従来のシーズ開発から次世代技術やプラットフォーム開発に移行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 複合品、モジュール品の開発は計画通り、サンプル出荷開始</li> <li>➢ マルチコアファイバに対応したアイソレータ・ファンイン/ファンアウトの開発進行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 複合品・モジュール品の評価進行、2026年から量産開始予定</li> <li>➢ 小型アイソレータの販売比率上昇、多芯化に向けて採用拡大</li> <li>➢ PLZTを用いた高速光スイッチの開発進行</li> </ul>
(2)生産性他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スリランカでの半自動生産装置を増設、生産能力増強</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 安定供給体制を強化するため、後工程拠点における生産の自動化</li> <li>➢ 前工程拠点における止水対策等自然災害対策を強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 半自動装置2号機を5月から立ち上げ、年度末に対象工程の80%を自動化</li> <li>➢ データセンター向け光部品の生産能力増強、売上増加</li> <li>➢ 高純度石英ガラス（SSG®）製品の売上増加</li> </ul>

セグメント別

## 営業利益(4Q累計)の増減要因 (前年比) - 光部品・デバイス

クラウド事業者の投資再開などにより売上が回復、増収増益となった

(単位：百万円)



# 光部品・デバイス事業の見通し

生成AIを始めとする情報通信の拡大を背景に年央より売上が回復、増収増益を見込む

## セグメント業績

(単位：百万円)

	2024年12月期	2025年12月期（通期）				対前年増減	前年比
	実績	上期予想	下期予想	通期予想			
売上高	7,520	3,846	4,775	8,621	+1,100	+14.6%	
営業利益	3,536	1,594	2,245	3,839	+303	+8.6%	
営業利益率	47.0%	41.5%	47.0%	44.5%	△2.5pt	—	

## 2025年12月期の見通し

- 海底ケーブル向け光デバイスの需要は持続成長の見通し
- 多芯化に伴い光アイソレータ製品の小型化が進行、2025年度は50%以上小型製品に切り替え予定
- データセンター市場向け光部品の生産能力を強化し、2025年に売上大幅増加の計画

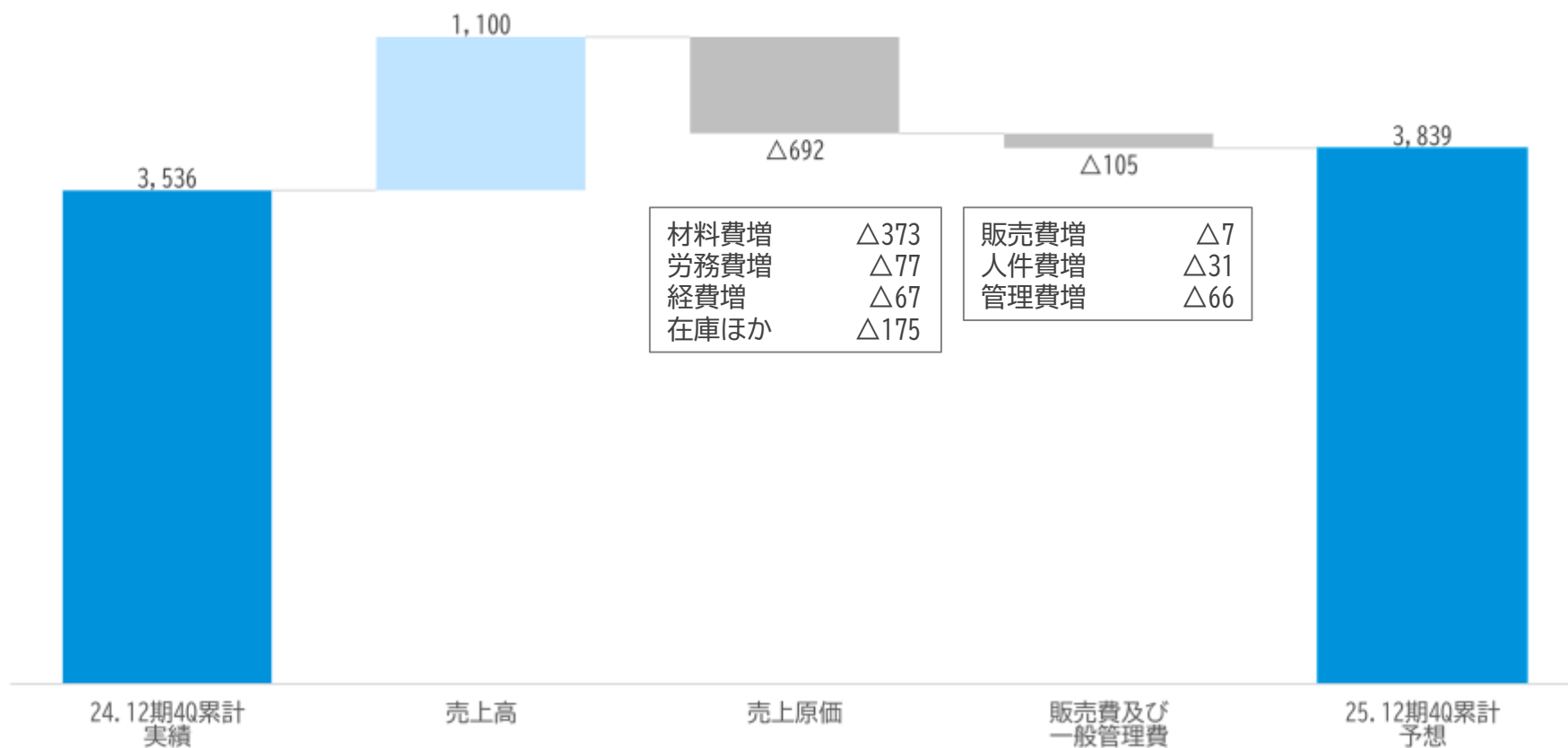


セグメント別

## 営業利益の増減要因（予想） - 光部品・デバイス

売上は増加の見通しだが材料費の増加の影響をある程度受ける見通し

(単位：百万円)

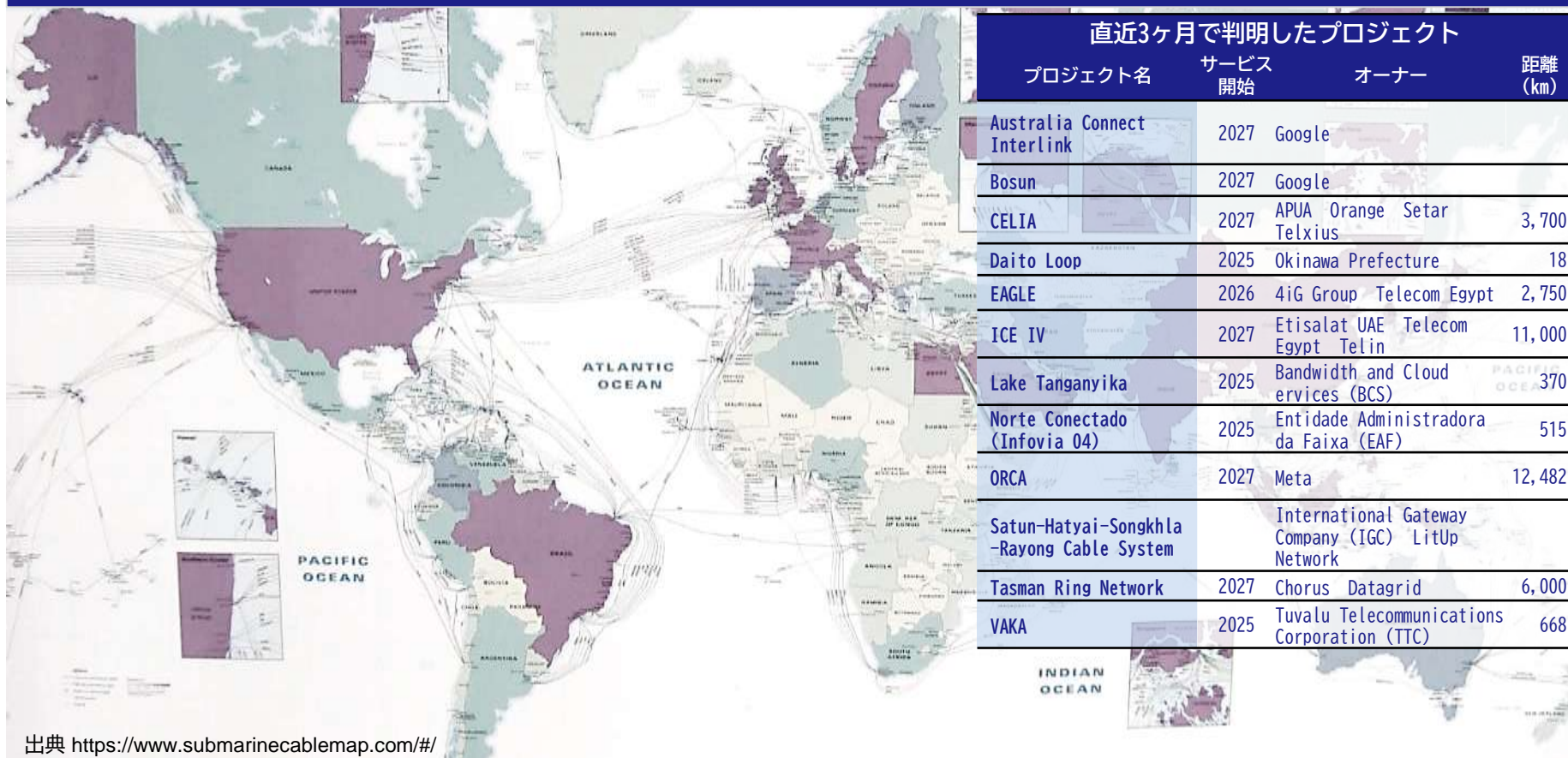


# 2025年以降も新規敷設が続く海底ケーブルネットワーク

通信キャリア、GAFAMに加え、データセンターからの新規プロジェクトが引き続き増加

\* 図中の各線が海底ケーブル

## 長距離海底ケーブルシステムの全体図



出典 <https://www.submarinecablemap.com/#/>

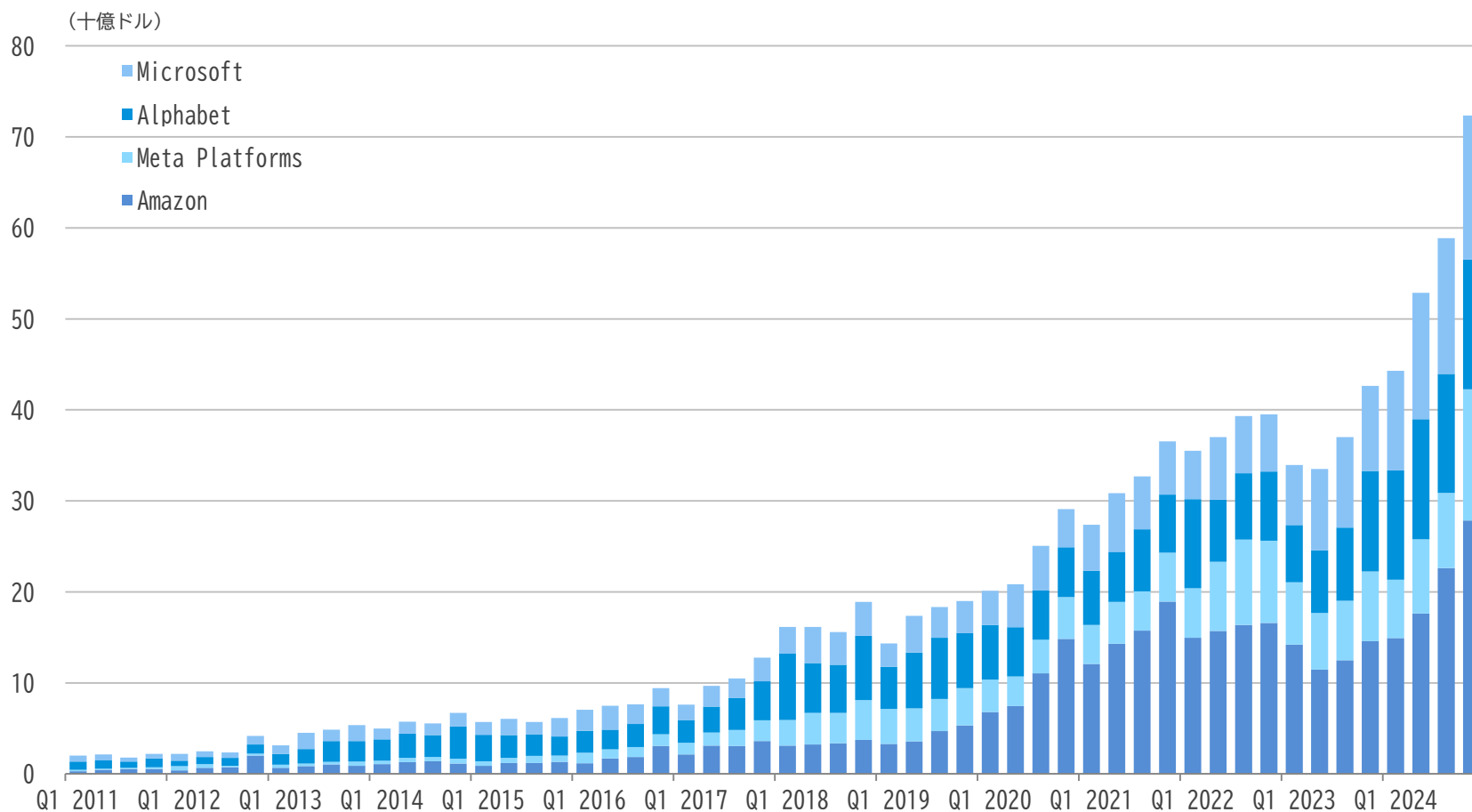
※出所) TeleGeography 「Submarine Cable Map」

※プロジェクトの更新情報は公表データから推定したものです。

# 2024年12月期までの事業環境

GAFAMの投資抑制が底打ち、2023年後半から回復傾向に転換、積極投資が続く

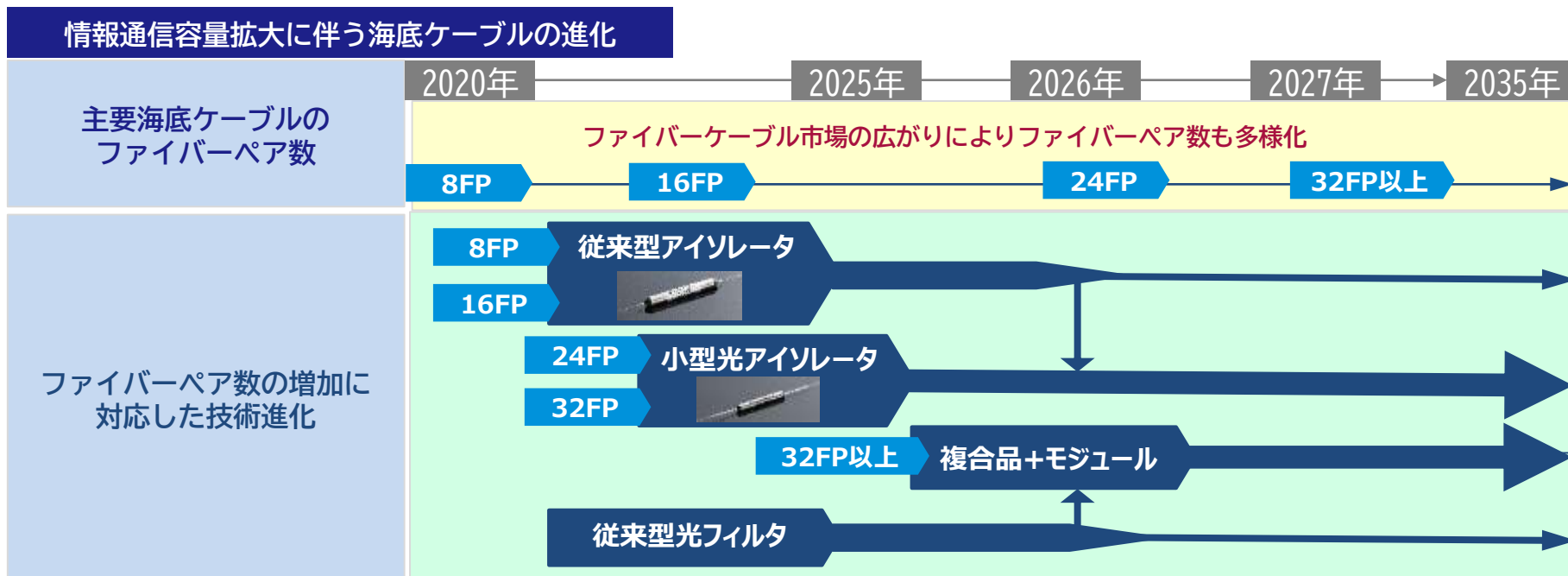
## クラウド事業者の設備投資



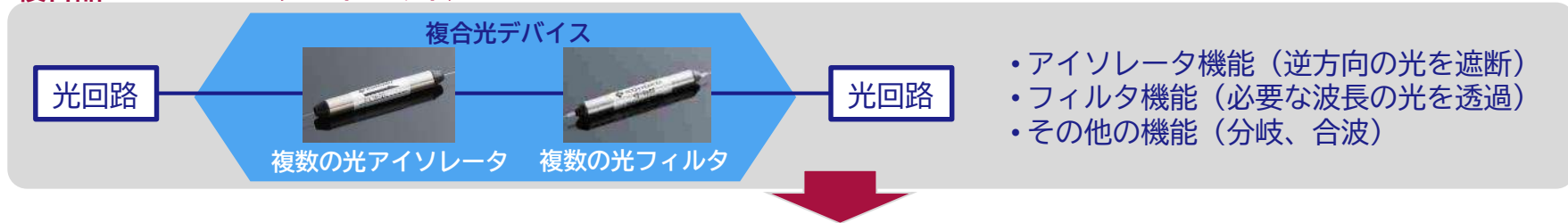
(出所：会社資料)

# 市場開拓による事業規模の拡大（光部品・デバイス事業）

海底ケーブルの多芯化進行に合わせてフルラインアップの品ぞろえで取り組む



## 複合品+モジュールデバイスのイメージ



複数デバイスのモジュール化で省スペースとケーブル製造工程の効率化に貢献

# 市場開拓による事業規模の拡大（光部品・デバイス事業）

次世代海底ケーブル向けマルチコアファイバに加え、生成AIデータセンタ、宇宙通信領域へ進出

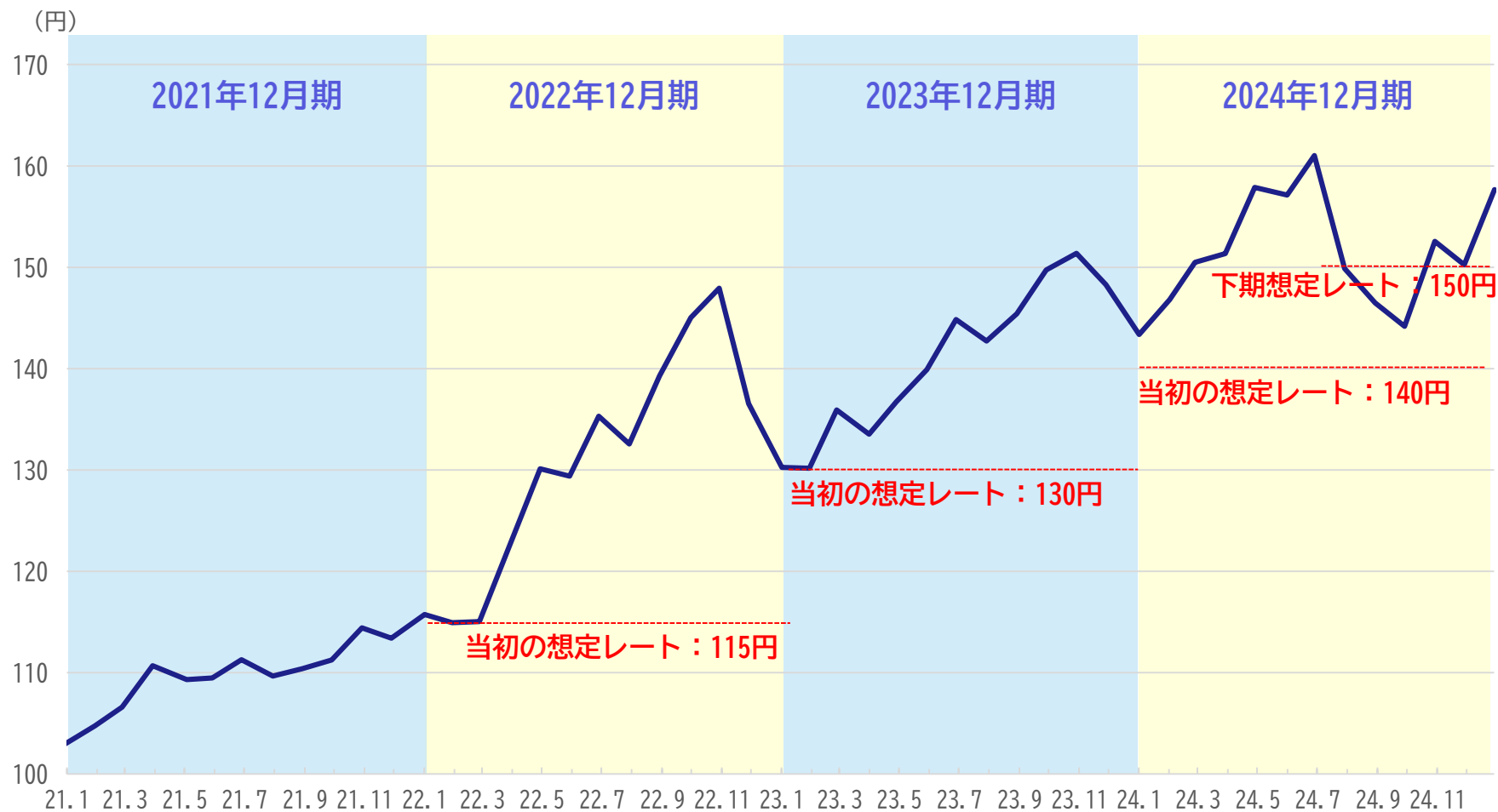


## IV. 參考資料

# 2024年12月期(4Q累計)の事業環境

1-12月の期中平均レートは、151.69円/USDとなり、引き続き円安傾向続く

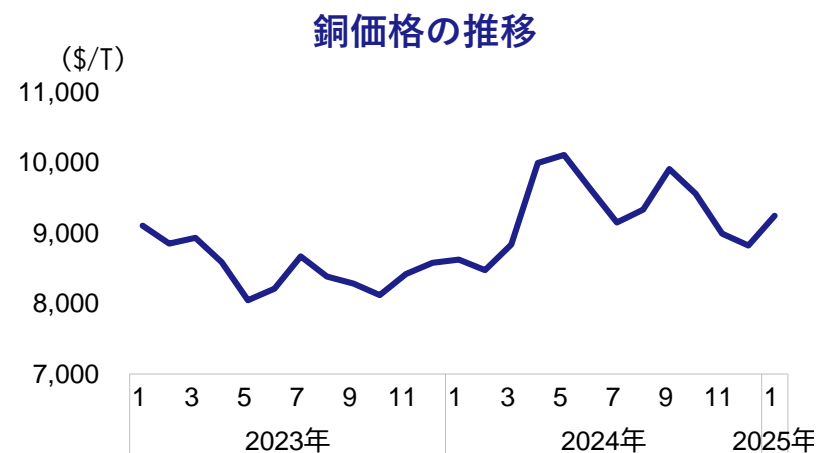
USD/JPYトレンドグラフ



# 外部環境 - 非鉄金属相場の動向

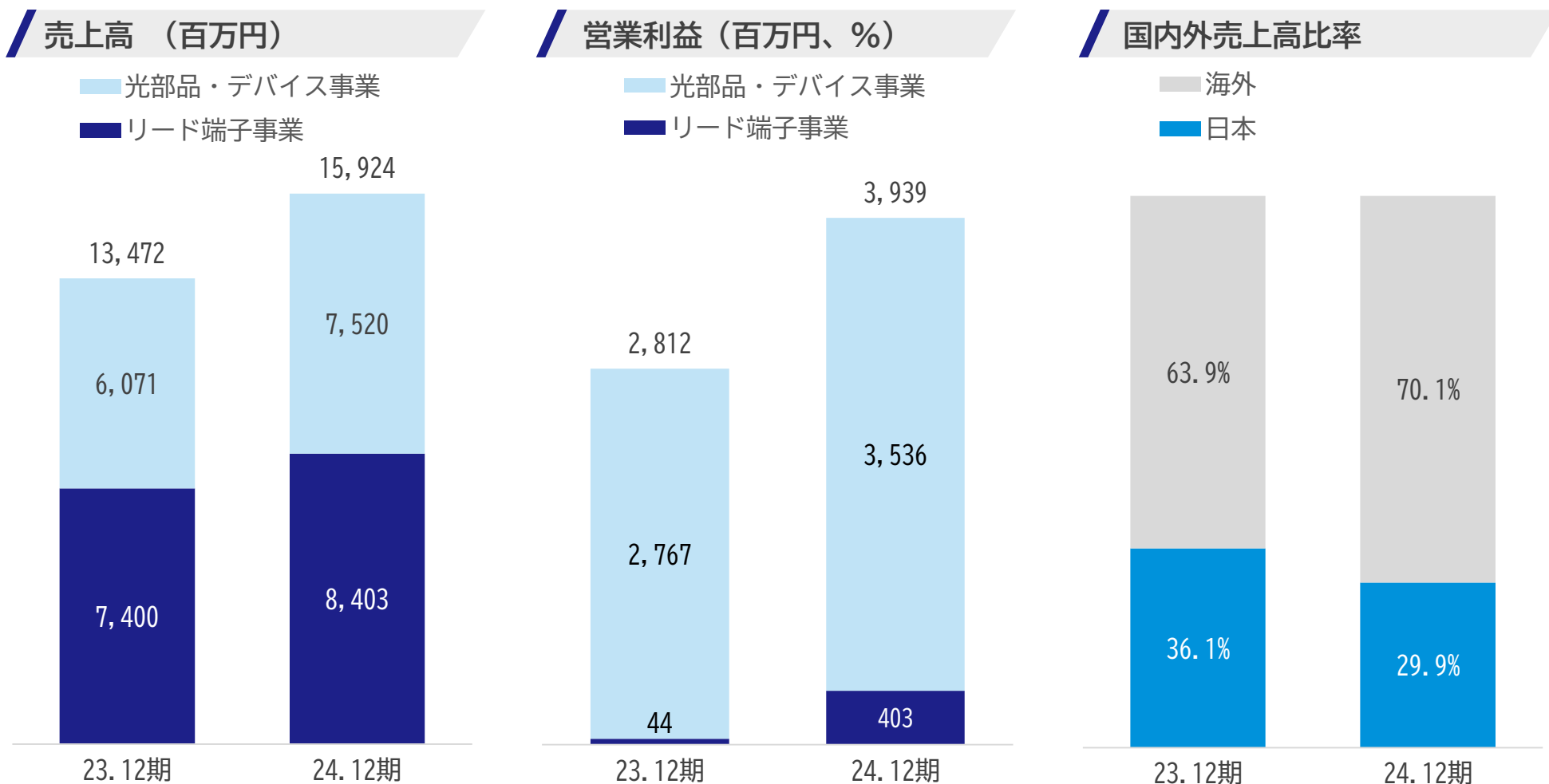
非鉄金属の市場価格は大きな変化はないが、為替動向、世界的なインフレの影響を受ける可能性

## 非鉄金属相場（LME）の推移



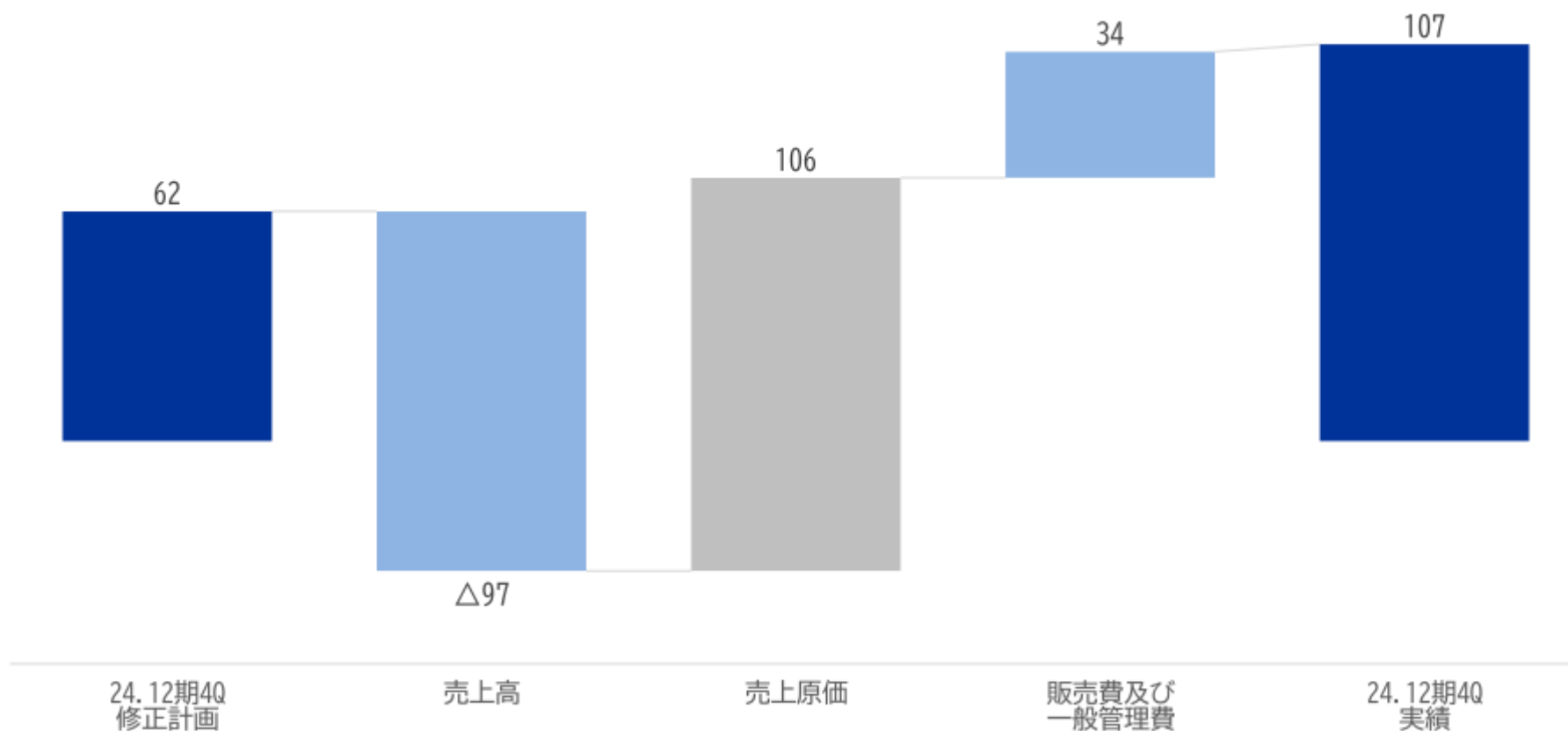


# セグメント別業績及び国内外売上高比率(4Q累計)



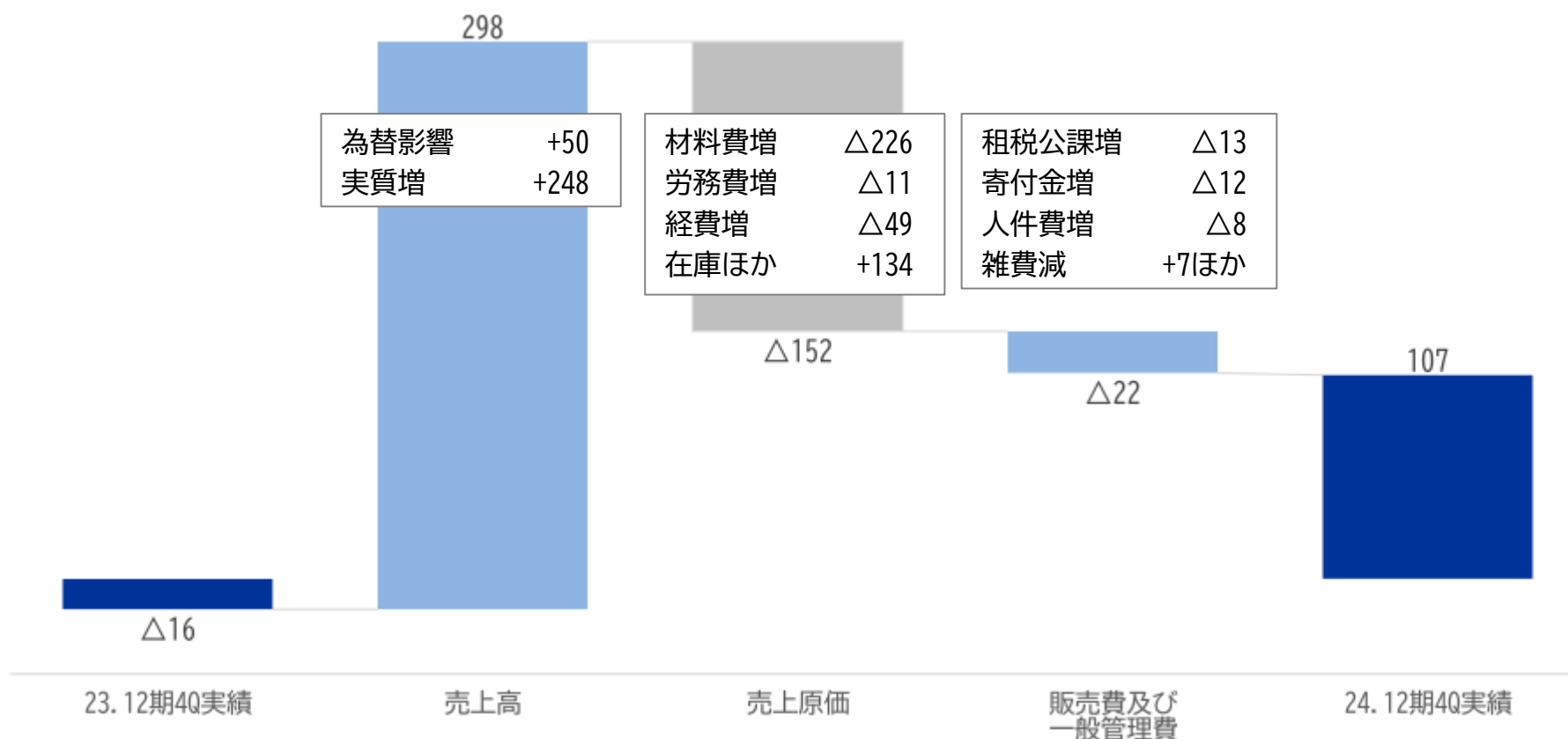
# セグメント別 営業利益4Q(10~12月)の増減要因 (24/8時点の修正計画比) - リード端子

(単位：百万円)



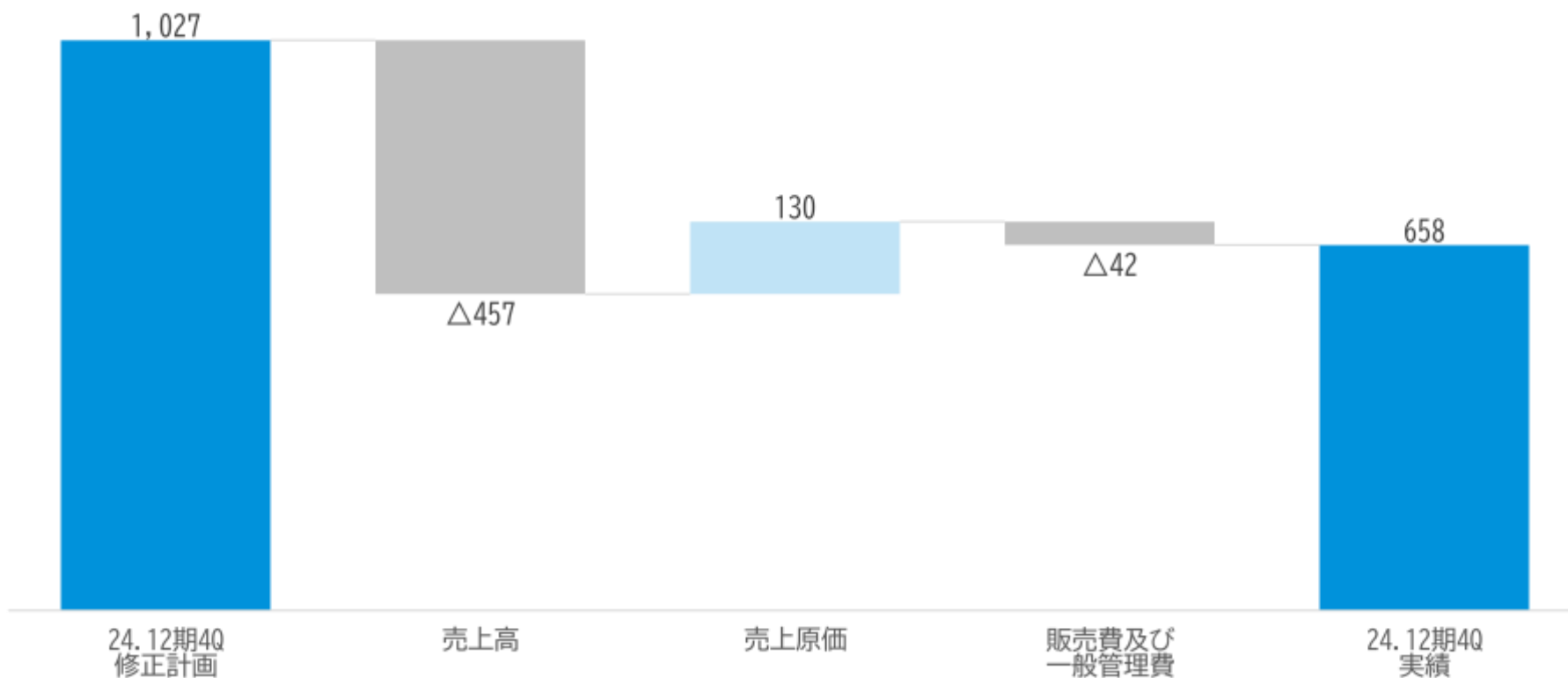
# セグメント別 営業利益4Q(10~12月)の増減要因 (前年同期比) - リード端子

(単位：百万円)



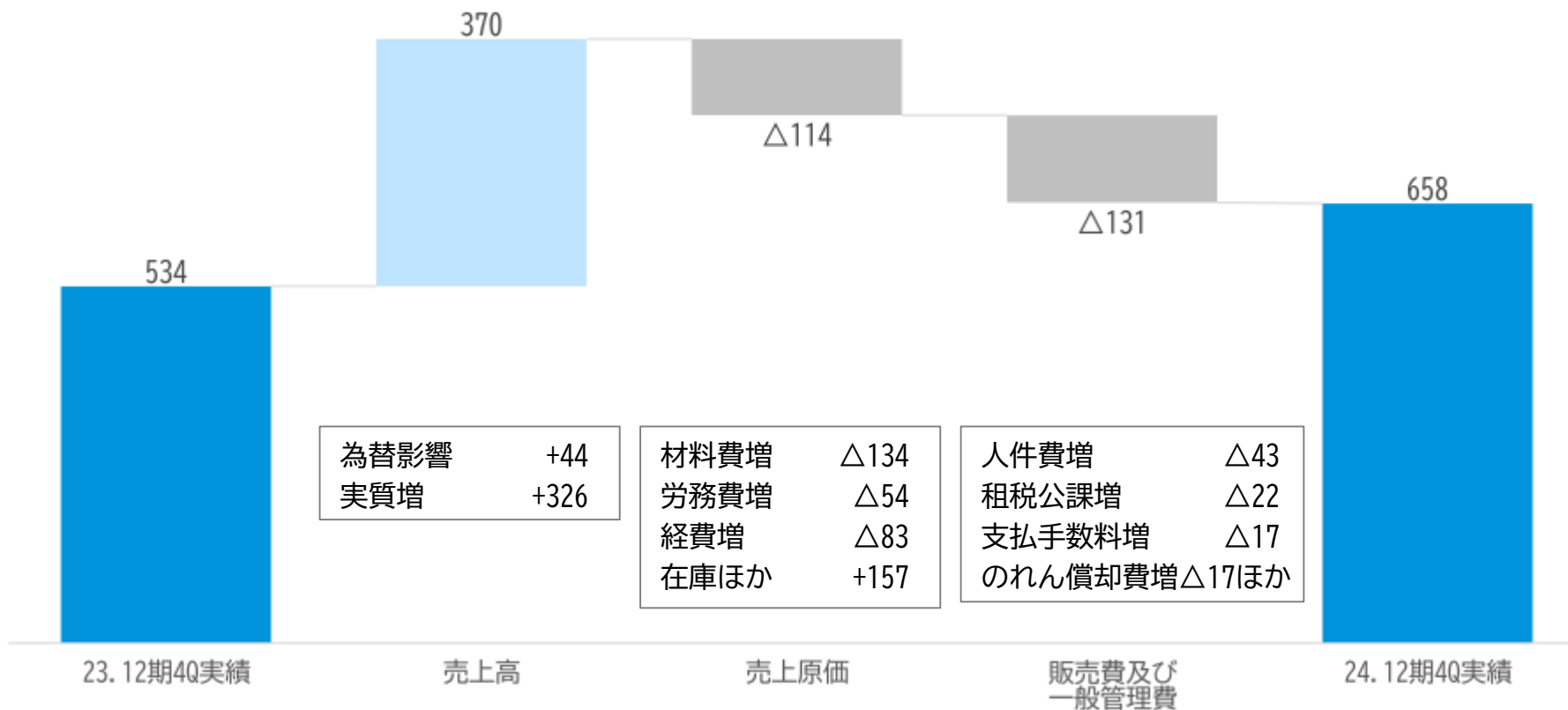
セグメント別  
営業利益4Q(10~12月)の増減要因 (24/8時点の修正計画比) - 光部品・デバイス

(単位：百万円)



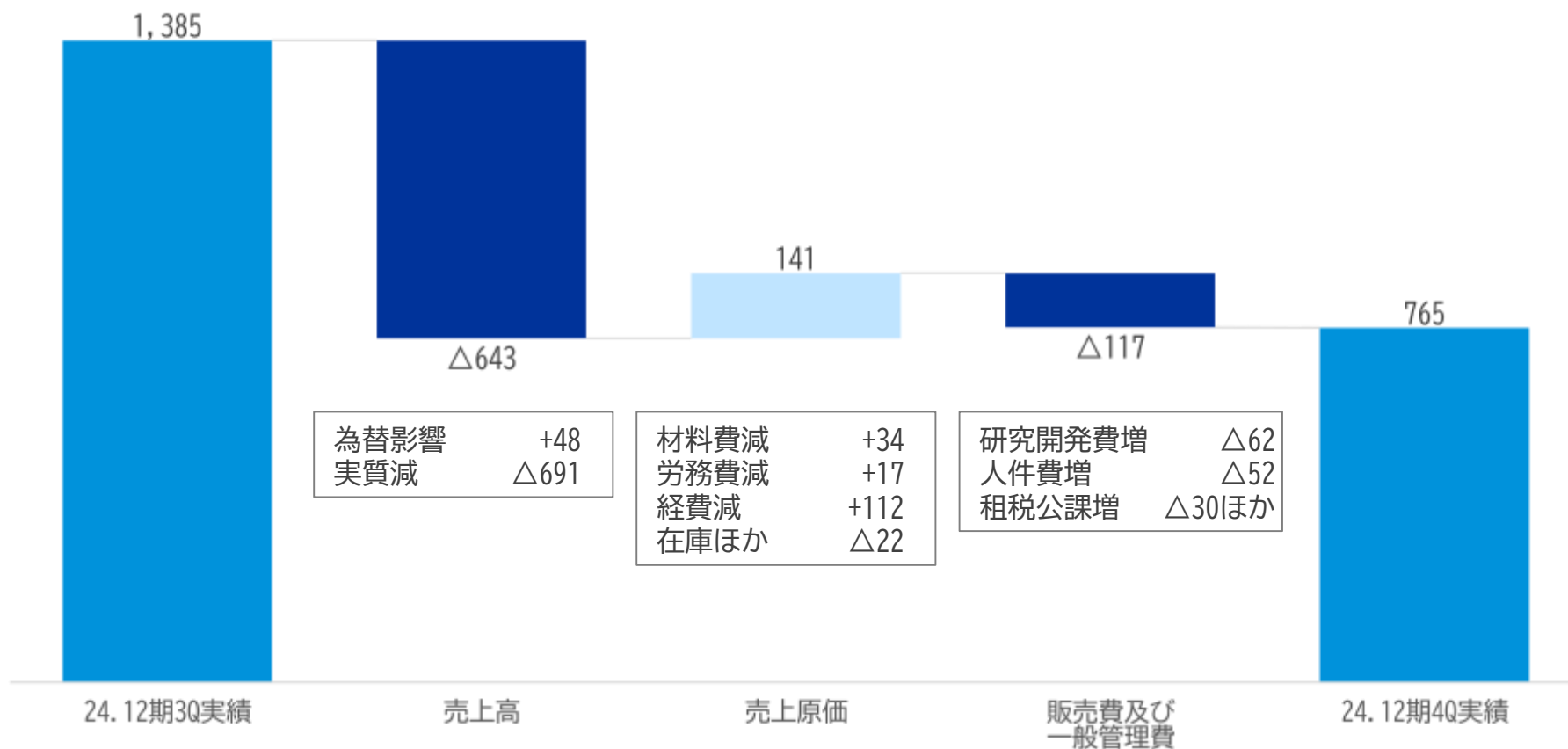
# セグメント別 営業利益4Q(10~12月)の増減要因 (前年同期比) - 光部品・デバイス

(単位：百万円)



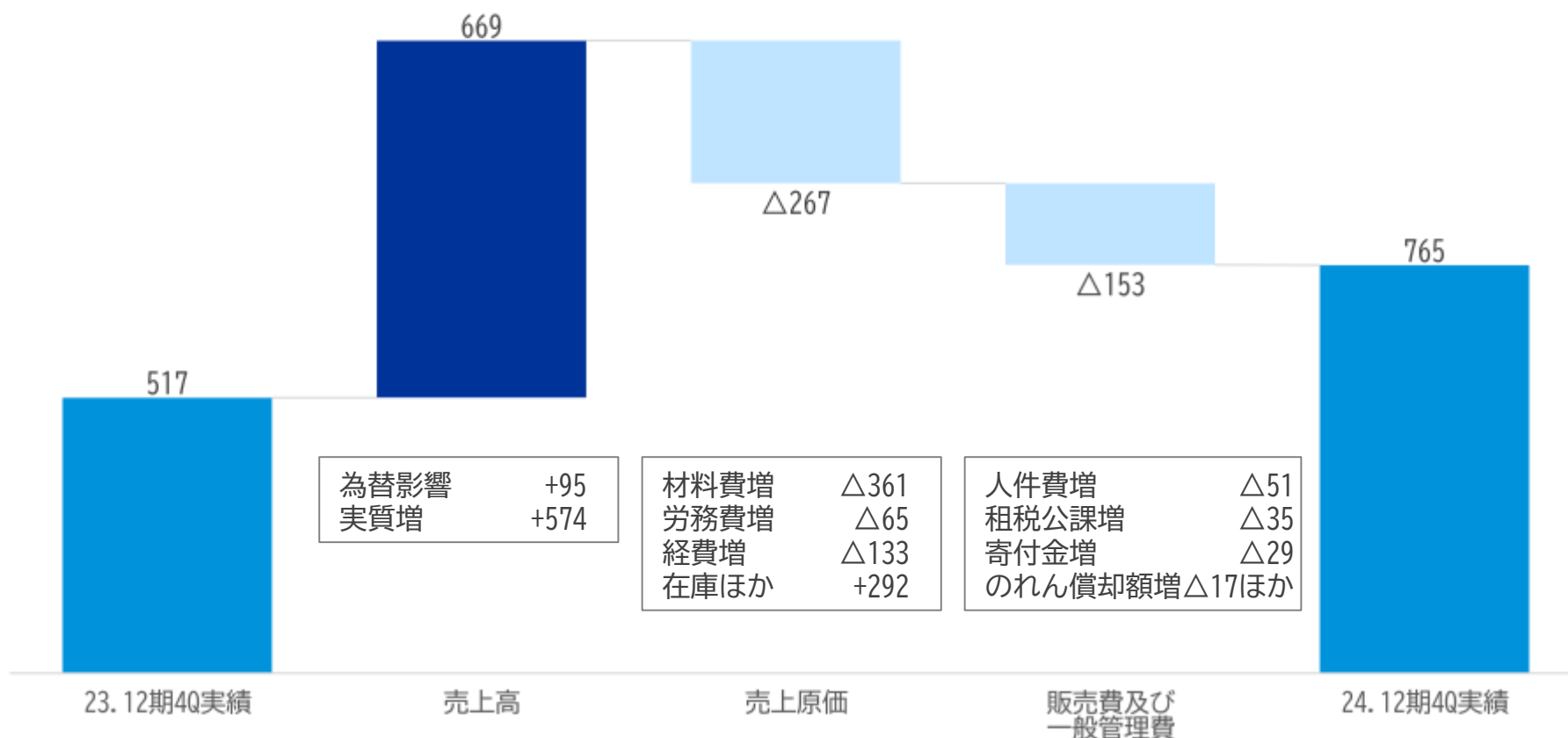
# 営業利益4Q(10~12月)の増減要因 (前四半期比)

(単位：百万円)



# 営業利益4Q(10~12月)の増減要因 (前年同期比)

(単位：百万円)



この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。  
それら将来の計画や予想数値などは、入手可能な情報をもとに、当社が計  
画・予測したものであります。実際の業績などは、様々な条件・要素によ  
りこの計画や予想数値とは異なる結果になることがあります。この資料は  
その実現を確約したり、保証するものではありません。

---

湖北工業株式会社 広報・IR担当

E-mail [ir@kohokukogyo.co.jp](mailto:ir@kohokukogyo.co.jp)

TEL 0749(85)3211 FAX 0749(85)3217